

## カナダ共産党創設とコミニテルン・パンアメリカン・エイジェンシー

山内, 昭人  
九州大学大学院人文科学研究院歴史学部門

<https://doi.org/10.15017/1516120>

---

出版情報：史淵. 152, pp.51-106, 2015-03-14. Faculty of Humanities, Kyushu University  
バージョン：  
権利関係：



九州大学大学院人文科学研究院  
『史淵』第152輯抜刷  
2015年3月発行

# カナダ共産党創設とコミニテルン・ パンアメリカン・エイジエンシー

山内昭人

# カナダ共産党創設とコミニテルン・ パンアメリカン・エイジエンシー

山 内 昭 人

## まえがき

- 1 カナダ共産党創設前夜
- 2 パンアメリカン・エイジエンシーによる共産党創設工作
- 3 カナダ共産党創立大会とコミニテルン加盟申請
- 4 合法政党創設へ向けて
- 5 カナダ労働者党創立大会
- 6 パンアメリカン・エイジエンシーの総括に向けて——結びにかえて

## まえがき

1919年3月にモスクワで創設された共産主義インタナショナル（コミニテルン）は、いわゆる世界革命の観点から世界各地に活動の拠点づくりをめざした。西欧では1919年秋にアムステルダム・サブビューローが創設されたが、早くも20年春コミニテルン本部との対立のゆえに解散された。南北アメリカでは1920年9月にパンアメリカン・エイジエンシーの創設が決定され、それは実質的には21年1月から活動したものの、同じくコミニテルン本部によって10月に解散された。両拠点の解散は、初期コミニテルンの国際的活動の困難さを示しており、しかもコミニテルンが早々と一方的に解散指令を出したところに、その後のコミニテルンの問題点の予兆があった。

私はインタナショナル（国際社会主義）史の文脈で、未だ世界中で果たされていないコミニテルン・パンアメリカン・エイジエンシーの可能な限り総合的な研究をめざすことになり、2004～2006年度に科学研究費補助金基盤研究

(C)を得て、「コミニテルン・パンアメリカン・エイジエンシーの基礎的研究」を行った。その研究成果は、史料集および著書で公にされた<sup>(1)</sup>。再度、2012～2014年度に科学研究費補助金(C)を「コミニテルン・パンアメリカン・エイジエンシーの総合的研究」の題目で私は得ることができ、その2年目の研究を終えるにあたり、研究成果中間報告書として史料集の増補改訂版をまとめることができた<sup>(2)</sup>。そのうち増補したのは、総合的研究をめざすにあたりこれまで着手できていなかったエイジエンシーのカナダでの活動の実態解明および活動資金の全般的な分析の二領域に関する史料であった。

エイジエンシーの最終的評価をめざすにあたり難題なのは、エイジエンシー内外の対立、とりわけ片山潜と（カナダではスコットの偽名で活動した）ヤンソンの内部対立をどうみるかである。どちらの言い分にヨリ分があるのかを究めるには、カナダ共産党創設、さらにはカナダ労働者党創設に対してエイジエンシーの中で唯一担当したヤンソンの役割をきちんと捉えなければならない。

そのエイジエンシーのカナダにおける研究環境も、ほぼ整ってきた。1990年代に入ってオタワのカナダ国立図書・文書館（Library and Archives Canada [LAC]）がモスクワのロシア国立社会-政治史アルヒーフ（Российский государственный архив социально-политической истории [РГАСПИ]；以下、ルガスピと略記）のコミニテルン・アルヒーフから関係史料を購入し、制限付きの利用が可能となった。本稿に関わる主要なものは、フォント495（コミニテルン執行委員会〔以下、ИККИと略記〕）の中のオーピシ98（カナダ共産党）および72（英-米地域書記局）である。またロンドンの国立公文書館に保管されているカナダ連邦警察の報告書類の一部（例えば、スコットに関する密偵報告）が紹介されている<sup>(3)</sup>。従来からカナダ国立図書・文書館にある官憲側報告書類の一部、とりわけカナダ共産党フォンド<sup>(4)</sup>がカナダ史家によって活用されてきて、私自身も今回それらを利用できたけれども、今後、未整理の関係史料群の公開が俟たれる。

確かに新史料にもとづく研究は出つつある。がしかし、エイジエンシーに焦点を絞って考察する意識はカナダ史家には弱く、ましてやヤンソン（スコッ

ト）の活動を片山を議長とするエイジェンシーの一員としてのそれと捉える意識はほとんどないと言ってよい。私の研究はそのエイジェンシーからのアプローチを中心としたものであり、2012、13年と二度にわたり現地史料調査を行い、上述の増補改訂版の史料編纂に続いて本稿においてその研究成果を初めて発表することになる。

## 1 カナダ共産党創設前夜

1917年ロシアの両革命、続く1918年11月のドイツ革命の知らせを受け、1918年末から19年にかけてカナダにおいては、労働運動および社会主義運動の昂揚が見られた。

本稿のテーマからまっ先に触れなければならないのは、アンガス（I. Angus）が1981年の著作『カナダのボリシェヴィキ』（2004年に再刊）の中で「共産主義がカナダにやって来た」と先駆的に掘り起こした「最初の共産主義者グループ」であろう<sup>(5)</sup>。

1918年11月の休戦直後、トロントなどの都市でリーフレット「平和と労働者たち」が数千枚郵便箱に投函されて配られた。それはカナダにおける組織された共産主義地下グループの最初の公の声明であったとみられる。続いて、それと形態と内容において似た二つの声明（第2声明と第3声明）が、1919年新年〔正確には、前年最後の二、三日〕と2月初めに同じく投函された。いずれも題は「同志兵士たちと労働者たちへ」であり、末尾には「カナダ兵士・労働者代表臨時評議会（Provisional Council of Soldiers' and Workers' Deputies of Canada）によって発行された」とあった<sup>(6)</sup>。さらに1919年4月30日には、「マイ・デイ／カナダ共産党綱領」が1枚の両面印刷で、モントリオールやトロントなどで投函された。表面では「資本主義者に反対する労働者の革命万歳！」が唱えられ、裏面では「プロレタリアート独裁の樹立」などが掲げられた。そして末尾で「カナダ共産党中央執行委員会によって発行された」（Published by the Central Executive Committee of the Communist Party of Canada）と初めて「共

産党」が名乗られた（実際の印刷は少なくともひと月前であり、3月23日の関係者の逮捕時に押収されている）<sup>(7)</sup>。

1981年の初版でアンガスは、史料的制約ゆえに輪郭を描いたにすぎず、「将来の歴史家がたぶんこの輪郭を改めるであろう、つまり少なくとも彼らは詳細を加えるであろう」と記していたが、2004年の再版でもそれを繰り返すにとどまった<sup>(8)</sup>。新史料にもとづく研究が今日進んでいるにもかかわらず、このグループと1921年5月に創設されるカナダ共産党との直接的なつながりは依然見つけられていない。

私が追加できるのは、以下の補足説明である。アンガスは「最初の共産党」がマルクス主義よりもむしろアナキズムに近いグループから成っていたことを明らかにし、有力メンバーがアメリカ合州国とカナダにまたがるロシア人移民コミュニティ、具体的にはロシア人労働者同盟（Union of Russian Workers of the United States and Canada; 以下、URWと略記）とつながっていたことを推定したが<sup>(9)</sup>、なぜ「評議会」という「ソヴェト」の英訳表記が使われていたのか？ その問い合わせ手がかりに、運動にはロシア2月革命勃発を機に展開されはじめた在米ロシア人コロニー統一運動という広範囲にわたる背景があったことを説明しよう<sup>(10)</sup>。

1918年2月1-4日にニューヨークで開催された（第1回）在米ロシア人全コロニー大会は、在米ロシア人移民の歴史において初めてロシア人コロニーを統一し、ロシア人組織の大同団結の始まりであった。その組織形態として労働者代表ソヴェトの創設、諸ソヴェトの連盟形成およびソヴェト大会の計画案を大会は採択した。けれども、同大会で主導権を握ったアメリカ社会党ロシア人部とURWを指導するアナキスト・グループとが、同ソヴェト創設の試みの中で対立した。ニューヨークで率先して合州国およびカナダ労働者代表ソヴェトが創設され、同機関紙『労働者と農民』（*Рабочий и Крестьянин*）が1918年6月26日に創刊されたが、それはアナキスト・グループに主導されることになり、彼らによって1919年1月6-9日に第2回合州国およびカナダ・ロシア人全コロニー代表者大会が開催された。大会で新執行委員会委員が選出された

が、その中でも対立が生じ、さらに内部分裂を加速させた。1921年3月6-9日に第3回ロシア全コロニー大会が開催されたものの、同統一運動は終息していく。一方、第2回大会をボイコットしたアメリカ社会党ロシア人部は、アメリカ共産党創設へ注力していった。

以上で明らかなように、アンガスは「最初の共産主義者グループ」を「最初のカナダ・ボリシェヴィキ」とも称しているが、厳密にはアナキストないしはアナキスト-共産主義者グループと称すべきであろう。上記第2声明において、「ボリシェヴィキとは労働階級の革命的行動を通じて資本主義の廃止を支持する社会主義者である」と大雑把に規定しているにすぎない。当のボリシェヴィキによる最初のカナダ工作は下記のように、マルテンス率いるソヴェト・ビューローによって試みられる。

ロシア革命とそれに続くレッド・スケアに関するカナダ世論が極めて多様であったことは、つとにバクスター (Th.C. Baxter) の修士論文で分析されている。それによれば、社会主義者および労働者の新聞雑誌においてさえ、ボリシェヴィズムがカナダで大いに成功するであろうとの確信はほとんどなかった。おそらく当時カナダで最も急進的であり、ボリシェヴィキ革命を第一次世界大戦の最大の勝利だと最も熱狂的に反応したカナダ社会党エドモントン・グループの不定期刊『ソヴィエト』(The Soviet) でさえ、1919年7月31日号においてロシアの「労働者革命」を「砂漠の中のオアシスのように労働階級解放の約束された地として」出現したとみたものの、ボリシェヴィキの暴力的方法を批判していた。その時、勃発し、一時的に成功し、そして敗北したばかりのウニペグのゼネラルストライキ（後述）について同誌は、それをボリシェヴィキ革命と直接結びつけず、むしろゼネストの成功は労働者のための完全な解放へ向けての長い道のりの始まりにすぎず、労働者の階級意識を増す手段 (a vehicle) とあくまで捉えていた<sup>(11)</sup>。

直に誌面分析ができた、同種のカナダ社会党ヴァンクーヴァー・グループの週刊『赤旗』(The Red Flag) においても同様で、例えば1919年5月24日号の巻頭記事「独裁について」はグラスゴーの独立労働党の機関誌『フォーワー

ド』からの転載だったが<sup>(12)</sup>、その中に「私は原則的にでも実践的にでも独裁を嘆願してはまったくない」との表現があり、それに対する編注が付されることもなかった。「ヴァンクーヴァー・ストライキ委員会の許可を得て発行された」との表記がタイトルの上段に付された6月7日号から、ウィニペグ・ゼネスト関連の報道が4号にわたり続くのだが、いずれの記事においてもロシア革命およびソヴェト運動との関連づけは見られない<sup>(13)</sup>。

1921年こそ、カナダにおけるレフトウイングにとって分水界の年であった。

同年初めの時点で、カナダ社会党は国内で最もよく知られたマルクス主義者の組織であった。しかも、1918年9月25日付勅令によってカナダ自治領政府がIWW、URW、ウクライナ社会-民主党、カナダ社会-民主党など14の結社、グループを非合法化して以来、カナダ社会党は社会主義政党の中ではほとんど唯一合法政党として残存していた<sup>(14)</sup>。他方、「最初の共産主義者グループ」は地理的に分散し、政治的に分裂し、さらには秘密の地下活動によって他のレフトウイングや労働運動全体から孤立していた。

そのような情況ゆえに、カナダ社会党を中心に共産主義者グループが加わっての第3インタナショナル・カナダ支部の創設が期待されていたし、実際その動きが王立カナダ騎馬警官隊 (Royal Canadian Mounted Police; 以下、RCMPと略記) マニトバ州ウィニペグ犯罪調査部からの1920年10月2日付報告で次のように報じられていた。「私はカナダ社会党が第3インタナショナルによって加盟することを求められたとの情報を受け取っている」。「その問題は社会党の最近の会議で討議され、カナダの党が第3インタナショナルに参加することは非常にありそうでないと言われている。大多数の党員は、ロシアの組織への参加は自らを革命的運動における軍事行動へ即刻結びつけることを意味し、そのようなことは今そしてカナダの労働階級が階級意識に無関心である限り、不得策であろうとの立場を取っている」<sup>(15)</sup>。

カナダ共産党は、カナダ社会党を核としてではなく、コミニテルンの一在外ビューローであるパンアメリカン・エイジエンシーの指令で派遣された1代表に共産主義者たちがまず協力するかたちで創設され、カナダ社会党を組織ごと

ではなくメンバーとして味方に引き入れていく<sup>(16)</sup>。その詳細は次章で述べるとして、アンガスは「なぜ社会党の最もよく知られた指導者の多くが、マルクス主義者として、また革命的左翼指導者として非の打ち所のない信用を得た人々が、ボリシェヴィズムと新共産党を拒絶したのか？」という問い合わせを立て、以下のように考察し、社会党側の要因をまとめ上げた。

最初に、共産主義者側にも問題があったことが触れられる。1921年5月23日、カナダ共産党創設のための統一大会で採択された綱領の中に、「カナダの社会主義諸党はこれまでプロレタリア革命の準備〔およびプロレタリア独裁下の経済再建〕における労働組合の役割の真の重要性を理解していなかった。……」とあった。この判断こそ、共産主義者側からの同盟工作を困難にし、社会党内の反対者に批判の口実を与えることになったし、1921年半ばまでに共産主義者はカナダ社会党を組織として味方に引き入れることをあきらめ、同党の最大限可能なメンバーを離党させ、共産党に入れることをめざすこととなった<sup>(17)</sup>。

皮肉なことに、1922年2月のカナダ労働者党という合法政党の創設（後述）が、カナダ労働階級における開かれた、影響力のある政治的潮流としての共産主義の真の誕生を印しづけ、その急速な成長は著しく、同年8月までに党員は4,000名を超えた。合法政党創設までの間、共産主義者の党派的政策が、なんとカナダ社会党内の多くの潜在的に共産党員になる可能性のある支持者を疎外したことか、とアンガスは嘆いた<sup>(18)</sup>。

その一方で、カナダ社会党指導者にも根本的な問題があった、とアンガスは説く。詳述はここでは割愛するが、彼らは社会変化のための真の運動へ積極的に参加する基礎として、いかに彼らの理論を利用するかを理解していなかった、つまりマルクス主義理論の実践化をめざしはしなかった。とりわけウィニペグ・ゼネストの敗北は、革命的組織としてカナダ社会党が不適であることを露呈した。同党の活動は長い間、教育活動、つまり「社会主義者にする」ことに限定されすぎていた、と<sup>(19)</sup>。

カナダ社会党は、自らが形成してきたマルクス主義の理論をカナダ共産党創

設に際してうまく合成させることができず、続くカナダ労働者党創設を契機とした分裂は、マルクス主義のブランドにとって致命的な打撃となり<sup>(20)</sup>、1925年夏に解党していく。

カナダの労働者にとっては、2年前の1919年が一大反乱の年であった。

1919年3月13-15日にカルガリーで西部労働者会議（Western Labour Conference）が239名の代議員を集めて開催された<sup>(21)</sup>。それは新しい一大組合（One Big Union; 以下OBUと略記）の創設を促すことになった（正式には同年6月創設）。OBUはIWWの姉妹組織のように見られがちだが、しかし例えば、IWWは超議会主義的実践をめざしたもの、OBUは議会主義的行動を拒否はせず、政治行動を目的達成のために必要とみた<sup>(22)</sup>。その点、アンガスの把握が以下のようにヨリ説得的であろう。すなわち、OBUはカナダ版IWWのようなサンディカリズムの古典的な一形態ではなく、確かに革命的組合運動の創造に重点を置いてはいるものの、西部労働者会議を主導したのは、カナダ西部の諸組合の新しい社会主義指導者であり、2年後に創設されるカナダ共産党へ加入することになるカヴァナ（J. Kavanagh）、プリチャード（B. Pritchard）、ナイト（J. Knight）ら社会党員であった。彼らは社会主義的政治組織と併行する社会主義者に指導された経済組織の創出をめざしていた。そのような彼らに対して、西部労働者は非現実的昂揚感のなか支持を与えた。代議員たちは自らがそれを呼びかけるぞと脅していたゼネラルストライキのために、実はいかなる実践的な準備もしていなかった。時をおかず5月15日にウィニペグでゼネストが起こり、6月25日のストライキ委員会によるスト中止表明にもとづく翌26日のスト解除を機に敗北が決定づけられた時、彼らは彼らの善意と急進的な決議だけでは不十分であることに気づくことになった、と<sup>(23)</sup>。

アンガスはウィニペグ・ゼネストの歴史的意義を高く評価しようとする講演原稿の中で、次のように繰り返した。1919年のウィニペグには労働者権力が萌芽的形態で確かに存在していたし、その可能性を現実のものにするため新しい「行動の党」が必要とされていた。にもかかわらず、カナダ社会党はその受け皿となりえなかった、と<sup>(24)</sup>。

他方、評価の方向性はアンガスと対比的だが、以下の歴史家たちもまた、1919年の労働運動からカナダ共産党への流れをまったく認めていな。すなわち、ウィニペグを中心としたカナダ西部の労働者急進主義（labour radicalism）をよく考察しているマコーマック（A.R. McCormack）の解釈は極端すぎて、その労働者急進主義はウィニペグ・ゼネストの敗北後、急速に終焉に向かい、その一部でもカナダ共産党へ流れたであろう道筋は（カナダ社会党員の多数が共産主義者となった事実を自ら記しながらも）まったく捉えられようとしていない<sup>(25)</sup>。それどころかマコーマックは、OBUは1919年6月にカルガリーで正式に創設されたが、それはウィニペグのゼネストが敗北しつつあることが明らかとなった時だった、とまで記す<sup>(26)</sup>。

ウィニペグ・ゼネストの一史料集の編者でもあるバーカソン（D.J. Bercuson）もまた、次のように解釈した。カナダの西部労働者はOBUに加わったのとほとんど同様に、急速にそれから去った。OBUは彼らの労働者急進主義の一表明だったかもしれないが、しかしそれは彼らの要求に合致しなかつたし、彼らを組織的にも、産業的にも、そして思想的にも蔑ろにした、と<sup>(27)</sup>。

しかし問題は、たとえ一時的にせよ、なぜカナダ西部の労働者がOBUに加わったかである。それは当時の失業、物価高騰などによってかき立てられた不安が、彼らにとっていかに切実であったかであり、その解決の糸口を探っていたからである。結局、労働者と社会主義者との結びつきは強固なものにはならなかつたけれども、エイヴリイ（D. Avery）によれば、OBUの創設によってカナダ西部において英語を話す労働者と外国語労働者との共同が高いレベルで達成された。主要産業に対する労働者管理が目標とされ、社会および経済的改革を達成する手段としてゼネストが言及される中、外国人労働者へも直接参加が呼びかけられた<sup>(28)</sup>。

その有力な外国人労働者は、ウクライナ人であった。1909年に創設されたウクライナ社会-民主主義者連盟は、1911年カナダ社会-民主党の創設に参加し、そして1914年1月自らを再組織化し、カナダ・ウクライナ社会-民主党と改名した。同党の理論的指導者になったのは、ポポヴィチ（M. Popovich）であ

り、彼は同党の規約、綱領等を準備した。ポポヴィチらは政治組織に加えてウクライナ移民労働者を広範囲に包含する大衆組織の必要性に気づき、1918年5月ウィニペグに最大規模のウクライナ人労働者会堂 (Ukrainian Labour Temple) を建築はじめた。その不動産を政治組織である同党が所有することは認められなかつたので、広汎な文化-教育的任務を負い、ウクライナ労働者移民への道徳的・物質的援助を行う大衆的文化-教育組織がそれを所有することとなり、ウクライナ人労働者会堂協会 (Ukrainian Labour Temple Association) という名で建築開始時に法人化された (会堂は1919年2月に完成)。同協会は、1918年9月上述のように非合法化されたカナダ社会-民主党に、ウクライナ人への社会主义思想の普及者として取って代わつた<sup>(29)</sup>。1919年春には西部およびオンタリオ州北部で一連の支部が設立され<sup>(30)</sup>、以後、全国的な組織となっていく。

ロシア10月革命後のレーニン政権によって1919年1月2日付で任命された在米ロシア・ソヴェト連邦社会主義共和国（正式にはさらに、人民委員会議外務人民委員部）代表マルテンス（Л.К. Мартенс）がニューヨークにロシア・ソヴェト政府ビューロー（以下、ソヴェト・ビューローと略記）を設置し、任務遂行をめざしたことについてはすでに考察したところだが<sup>(31)</sup>、同ビューローはカナダにおいても貿易の可能性を探っていた。1920年5月4日のマルテンスによるカナダ通商貿易大臣フォスター（G. Foster）への問い合わせに対する同月27日の返書によれば、カナダには両国間の貿易を禁ずるいかなる法律もないが、しかし政府はソヴェト政府と個々のカナダ企業との間の契約履行を保証するつもりもない、とそっけなかった<sup>(32)</sup>。

時を同じくして、イギリスとの貿易再開のためロンドンに派遣されていたソヴェト・ロシア代表クラシン（Л.Б. Красин）からも、カナダ高等弁務官パーリー（G. Perley）へ貿易再開が次のように要請された。マルテンスによるカナダとロシア間の貿易開始の試みは、貿易諸問題を処理するためにロンドンからモスクワからロシア人通商代表がオタワに派遣されたならば、実現されたであろう、と。それに対するカナダ自治領政府の立場は、英-ソ貿易協定が作成される前には行動を起こさないというものであった<sup>(33)</sup>。

にもかかわらず、マルテンスは合州国での活動と同様、通商交渉を進めていった。1920年11月4日、元部下ヌオルテヴァ（S. Nuorteva）へ宛てた書簡には、こうあった。あなたの出発時から、我々のカナダ案件は新しい、かつ非常に重要な展開を示した。一連の交渉の後、カナダ政府はロシアと交易関係をヨリ早く開始するため、我々が直ちにカナダへ注文を入れる条件で、200万から300万ドルまでの信用取引を我々と始めることを決定した、と<sup>(34)</sup>。その信用取引のためにエストニアのレヴァルの銀行にソヴェト政府によって預けられていた金塊が、商品を運搬して来たその船の帰路、カナダに運ばれることが想定されていた。

マルテンスが期待するほどには事は進まず、その上、1921年1月22日彼の離米によって両国間の貿易の再開の見通しが立ちがたくなつた（というよりも、むしろイギリスとの貿易交渉を最優先するとのソヴェト政府側の方針転換ゆえにますますそうであった<sup>(35)</sup>）。その一方で、2カ月後の3月16日、イギリス政府とロシア・ソヴェト政府との間の英・ソ貿易協定および貿易承認声明がイギリス商務省長官ホーン卿（Sir R. Horne）とクラシンとによって署名された<sup>(36)</sup>。それを機に、現下の経済危機の克服のためミーエン（A. Meighen）自治領政府は、英・ソの貿易と通商の再開のための合意条件がカナダにもまた適用されることを要望した<sup>(37)</sup>。

この後、両国間の交渉は、ロシア政府派遣候補者のカナダ政府による拒絶など曲折を経て、1924年3月ソヴェト通商代表団のモントリオール到着までこぎつけたが、それも束の間、1927年5月に再び道は閉ざされることになる<sup>(38)</sup>。

そのようなカナダ政府との貿易交渉と併行して、ソヴェト・ビューローはカナダ・レフトウイングなどに対して、コミニテルン・パンアメリカン・エイジエンシーによる関与以前に、先駆的に関わろうとしていた。その「前史」をRCMPの治安関係週報によってだが明らかにしよう。

早くも1919年5月、アメリカ司法省捜査局員スボランスキー（J. Spolansky）によってマルテンスに淵源する資金提供が報告されていることに、ロドニイ（W. Rodney）は触れているが、その中身は紹介されていない<sup>(39)</sup>。ソヴェト・

ビューローのカナダでの活動の中でヨリ具体性があるのは、マルテンスらがイニシアティヴを取って運動を展開し始めた対ソヴェト・ロシア技術支援協会 (Society for Technical Aid to Soviet Russia; 以下、技術支援協会と略記)<sup>(40)</sup>、ソヴェト・ロシア医療救護委員会 (Soviet Russia Medical Relief Committee; 以下、医療救護委員会と略記) など合法的な関連組織についてである。

1920年夏以降、ニューヨークのソヴェト・ビューローの働きかけはモントリオールを中心に展開された。1920年8月12日で終わる週の秘密報告のケベック州の項には、こうある（以下も週毎の秘密報告に拠っているが、逐一の言及は省かせてもらう）。技術支援協会に関して、ニューヨークのソヴェト・ビューローからの指令で実施される登録が完了するはずである。この組織は成長しつつある、と<sup>(41)</sup>。

1920年8月11日、ロシアとのいかなる戦争にも反対して抗議するためにケベック独立社会党主催でモントリオールの労働者会堂において開かれた集会で、議長 (F.W. Garrison) がニューヨークのソヴェト・ビューローからの、「最近カナダを訪れたソヴェト派遣代表」(one [J.G.] Ohsol) が出席できないことを悔やむ電報を読んだ。そこで抗議の決議が採択された<sup>(42)</sup>。また、マクブライド (I. McBride) というニューヨークのソヴェト・ビューローのスタッフ〔正式ではないであろう〕の講演者が合州国を旅行しており、講演するためモントリオールに送られてくるかもしれない、とあった<sup>(43)</sup>。

マクブライドの訪問については続報がある。モントリオールのOBUオーガナイザー、ビネット (U. Binette) が、10月にマクブライドの当地訪問を準備するため5人委員会を組織しつつある。マクブライドはニューヨークのソヴェト組織の代表であり、彼の目的はカナダでソヴェト・システムの樹立を唱道することであり、ロシアのための医療救護のための資金を集めることである、と<sup>(44)</sup>。

マクブライドは1919年9月初めから10月半ばにかけて5週間訪ソし、その訪問記を刊行したジャーナリストで<sup>(45)</sup>、医療救護委員会ウィスコンシン州支部主催の募金活動のため11月7日の大衆集会でマルテンスとともに登壇した記事があるが<sup>(46)</sup>、果たしてその時のカナダ訪問は実現したのかも含めて、続報

は掲載されていない。が、1921年2月10日より少し前に同種の集会でマクブライドが登壇し、訪ソで経験した状況を概説したとの言及があり<sup>(47)</sup>、またソヴェト・ロシア飢饉救済キャンペーンにおいてマクブライド夫妻が印象深い演説者であったとの回想もある<sup>(48)</sup>。

1920年9月11日、モントリオールで技術支援協会の祝賀会が催され、約500～600名が出席し、ほとんどが外国人であった。書記レヴェンコ（W. Revenko）は次のように語った。「ニューヨークからのロシア・ソヴェト大使ルードヴィヒ・K・マルテンスの指令によって、この組織は1919年9月7日にロシア人技師・労働者同盟の名の下で生まれた。当初、この組織は20名のメンバーから成っていた。その時、モントリオールのロシア人コロニーはこの組織の成功を信じていなかった、当局からの抑圧と逮捕の下ですべて消えていったいくつかの類似の組織が以前あったがゆえに」。とは言え、URW全般がそうであったように、そこでの「諸集会、自動車学校、そしてロシア語や他の学科の夜間クラスは非常に人気があった」<sup>(49)</sup>。

同じく9月19日のモントリオールでの技術支援協会の会議が報告されている。OBUのビネットは、ソヴェト・ロシアのための基金を募集するための特別委員会を組織する計画に同意したけれども、マルテンスおよびメンデルソン博士（Dr. W. Mendelso[h]n）からの特別な両書簡を受け取ったと言い、その中にはこの問題との関連でメンデルソンおよびもう一人の代表が9月末か10月初めにモントリオールに来るだろうから、両代表の到着まで組織すべきではない、と忠告したとある<sup>(50)</sup>。

同協会のさらなる会議がこの週に開かれ、「書記W. レヴェンコはニューヨークの医療救護委員会書記メンデルソン博士からの書簡を読み上げ、その中でソヴェト・ロシアを救うための資金をモントリオールの労働者から集めることを頼まれた」<sup>(51)</sup>。

合州国からの最近の到着〔複数形〕による煽動で、モントリオールのユダヤ社会党は、1920年10月29日に第3インターナショナルに完全な忠誠を誓う一共产党の形成を討議するために集まった。出席者はカナダ社会党（フランス語

セクション）（通称ケベック社会党）指導者サン・マルタン（A. Saint-Martin）、ビュヘイ（M. Buhay）ほか3名である。激論の末、多数派は提案された党を創ることを決定し、組織委員会がサン・マルタンら3名から構成されることになった。

1920年11月5日、ヴォルツト（Volzt）と呼ばれたロシア人がウイニペグに行く途中でハミルトンを訪れた。彼はニューヨークのマルテンスの事務所の信任の厚い職員と自らを説明した。彼はソヴェト政府のための医療品〔購入〕基金を集めることと何らかの関係をもっているように思える。彼の説明によれば、マルテンスの事務所が、さまざまな種類の資材を重だった会社に大量注文し、それによって失業を防ぎ、それで政府をしてソヴェト代表をヨリ寛大なやり方で遇することを余儀なくさせるという考えでもって、カナダに支部を開くつもりである、と<sup>(52)</sup>。

1920年11月7日に技術支援協会がロシアにおけるソヴェト政府樹立3周年記念の祝賀会をモントリオールで計画しつつあった。象徴的な性質の街頭パレードや公開集会が開催されるであろう。それとはまた別に、マルテンスの右腕と評され、『ソヴィエト・ロシア』（*Soviet Russia*）の編集者であるニューヨークのハルトマン（J.W. Hartman）が出席し、合州国とカナダの中で今進行中のソヴェト基金の募集に関する事柄を説明する予定である、と報じられた<sup>(53)</sup>。また、11月28日には、全ソヴェト大会（An All-Soviet convention; 未詳）がニューヨークで開催される予定であり、モントリオールの技術支援協会は二人の代表ザロヴェツ（Zarrovetz）とグリン（Gurin）を派遣する予定である、とも<sup>(54)</sup>。

1921年早々、マルテンスの離米後の活動に関するカナダ官憲報告は現時点で見い出されていないけれども、実際のところ活動は停滞したであろう。が、時をおかず、同年春コミニテルン・パンアメリカン・エイジエンシーによる活動が始まる。

## 2 パンアメリカン・エイジエンシーによる共産党創設工作

コミニテルン・パンアメリカン・エイジエンシーがカナダ共産党創設へ向けて行動を開始した発端は、コミニテルン本部からの指令にあった。そのことはコミニテルン・パンアメリカ評議会のトムソンことフレイナ（Thompson=L.C. Fraina）とスコットことヤンソン（Ch.E. Scott=K. Jansons）の両名によるアメリカ共産党（CPA）および統一共産党（UCPA）各中央執行委員会（CEC）宛1921年2月19日付文書からわかる<sup>(55)</sup>。

内容を紹介する前に、「コミニテルン・パンアメリカ評議会」と当人たち自身が誤用した表記について説明しておく。1921年6-7月のコミニテルン第3回大会に一部重なって開かれた創立大会において赤色労働組合インタナショナル（プロフィンテルン）が正式に創設されたが、その1年前7-8月のコミニテルン第2回大会時に暫定的に組織されていた国際労働組合評議会は、その正式創設を待たず、コミニテルンがパンアメリカン・エイジエンシーを創設したのと併行して、パンアメリカ評議会の創設をめざし、合州国においてはその仕事を実行するためアメリカン・ビューローを組織しつつあった。パンアメリカン・エイジエンシーとパンアメリカ評議会の両議長を片山が務めるなど数少ないメンバーによる兼務を免れず、時には名称を使い分ける程度のものでもあったゆえに、両組織名の誤用は頻繁であった<sup>(56)</sup>。

内容紹介に移ると、パンアメリカ評議会はアメリカン・ビューローの組織化の開始を伝えたのだが、その中にカナダにおける一共产黨への発展に関する指令が含まれていた。トムソンとスコットが言うには、計画に二面があった。つまり、1) カナダにおける二つの古い社会主義政党において始められたレフト・ウイング運動を獲得し、そして合法紙の月二回刊行をめざすこと、2) 今カナダにおいて非合法の共产主義グループを拡大・強化し、そして理論紙の非合法下での月一回刊行をめざすことが。それらへ向けて行動を開始するために、それぞれカナダ支部をもっている両党（CPAとUCPA）へ、「彼らの名前、住所等に関するすべての情報を我々に与えてもらい、彼らに我々のカナダ代表と一緒に

緒に働くことを指図してもらいたい」との依頼がなされた。

1921年3月1日、議長ヤヴキ (Yavki=片山)、スコット、そしてトムソンの代理と自称したハーパー (Harper=Dr. Julius Heiman [Hyman]) の3名によるアメリカ評議会会議において、3月7日から始まる6週間の予算1,440 ドルが組まれたが、その際、アトウッド (H. Atwood; 本名はハリソン [C. Harrison] で、元アメリカ社会主義労働党員および党公式機関誌『ウェークリー・ピープル』*[The Weekly People]* 編集者) がカナダに対する代表であり、さらなる通知までウィニペグにとどまるべきであり、そのための信任状を発行することの動議が出されて可決された<sup>(57)</sup>。

翌3月2日、ニューヨークで開催されたアメリカン・ビューロー会議議事録によれば、(パン) アメリカ評議会を代表してスコットが語った中に、「同志アトウッドは指定された期間、ビューローを去らなければならないだろう (このことは極秘であるべきだ)」とあり、アトウッドはカナダに向けて途中退席した<sup>(58)</sup>。

このカナダでの活動についてアトウッドは、後述する1921年4月18日の会議に詳細な報告書を提出しているので、まずその内容をみていくことにする<sup>(59)</sup>。

1921年3月6日、アトウッドは〔シカゴ経由で〕 ウィニペグに到着した。彼の最初の任務は、OBUがモスクワでの赤色労働組合インタナショナル〔創立〕大会へ1代表を選出することを見届けることであった。が、すでにトロントのナイトが選ばれていたことを知り<sup>(60)</sup>、空いた時間をウィニペグの労働運動に影響を及ぼした全般的状況を研究することに費やすことになった (「この都市はいく人かの指導者を投獄に導いた1919年における大ゼネストの舞台であったので、当然、感情は『労働者の大義』のためにお強かった」と続く記述は、アトウッドが最初の訪問地として派遣されたのが当地であった理由を如実に示している)。

OBUの拠点であるうえに「メンバーは50名にすぎないけれどもカナダ社会党の拠点でもあった」当地で、私は第3インタナショナルに共鳴する左翼的傾向があるかどうかを知りたいと望み、カプラン (F.W. Kaplan) という社会党

員が非常に第3インタナショナルに興味があることを知った。私はまた、カナダのUCPAの公式機関紙として指名された『コミュニスト・ブレティン』と呼ばれる非合法紙が、私が来る1週間前に秘かに配布されたことを知った」。

ここに登場するカプランは、早くも1920年10月13日にカナダ社会党ウイニペグ第3支部の集会で、同党が第3インタナショナルへ参加することを提案していた。その動議は7対17で否決されたけれども、党執行部がその問題に関する全党レファレンダムを実施するべきとの彼の続く提案は、ほとんど満場一致で採択された。ヴァンクーヴァーを拠点とした党執行部は、2ヶ月遅れて1921年元旦に党公式機関誌『ウェスタン・クラリオン』(Western Clarion) の第一面に「共産主義インタナショナルへの承認条件」を公表し、この問題に関する全党的議論の開始を告げ、以後、加盟をめぐる議論が盛んとなっていた<sup>(61)</sup>。

また『コミュニスト・ブレティン』は、「アメリカ統一共産党カナダ支部によって発行され」、創刊号だけで終わったけれども<sup>(62)</sup>、紙面を見ると、カナダ共産党創設前夜の刊行物としては最も急進的な内容が込められ、共産党創設へ向けての一準備となったと言えよう。巻頭の「世界革命のために！」(1-2頁)では、資本家が国際連盟を組織したのに対抗して組織された第3インタナショナルは、資本主義を破壊し、労働者を解放する世界革命の指導的中心であることが表明された。続く「諸ソヴェト」(2頁)では、労働組合では決してないソヴェトが「労働階級の政治的組織」として紹介され、「諸ソヴェトはプロレタリアート独裁である！」で結ばれた。さらに「回想の中のOBU」(2, 4頁)と「SPC〔カナダ社会党〕と共産主義」(3-4頁)では、OBUへもSPCへもいすれも批判的で、共同をめざす積極的姿勢は皆無であった。前者では、ウイニペグ・ゼネスト敗北を経た1920年1月OBU〔ウイニペグ代表者〕大会での急進的戦術の後退が批判され、後者では、上述のカプランの「活躍」に対しても次のように手厳しかった。つまり、彼の加盟提案は、本質的問題ではなく技術的問題のみを取り上げており、SPCの綱領がコミニテルンによって規定されている要求に適合していないし、本質的に第2インタナショナルの諸党の綱領と同様であることを蔑ろにしており、「コミニテルンへの加盟は過去とのきっぱ

りとした訣別を意味する」と。

アトウッドの報告に戻ろう。私はカプランと会い、信任状を示した時、CPAがウィニペグといくらかの関係をもっているという事実を明らかにした。というのは、彼がその党員証を持っていたから。彼はウクライナ労働者会堂〔協会〕の指導者ポポヴィチ（Popenitchと誤記されている）を連れて来た。私は彼らに私の仕事の性格の概略を述べることに時間を費やしたが、彼らは私を手助けすることに懐疑的で、私と関わることができないと語った<sup>(63)</sup>。

私がニューヨークを発つ時、カナダで仕事をするのはひと月であろうとの指示があったが、ウィニペグで多くが成し遂げられないうちに1週間が過ぎた。私は大方の仕事が東部のオンタリオ、ケベック両州にあるだろうとの結論に至り、3月15日にウィニペグを去った。

3月17日到着したモントリオールで、マルクス（偽名の表記はMarksとMarkusが混在し、以下も同様の例があるが、4月18日の後述する会議で本報告を踏まえた議事録が作成されているので、そこで表記を最初に掲げて統一しておく；CPAのCECメンバー）とルゴフ（RugoffとRogoffが混在）が当地の全体状況をみるのに私を手助けした。

フランス語を話す労働者の中に第3インタナショナルに賛成の強い感情があるし、共産主義に関するフランス語文献が多量にフランスから来、公然と配布されている。しかし、この分子には有能な指導者が欠けている〔ということは、前章で触れたサン-マルタンと接触しなかったとみえる〕。

共産党と国際労働組合評議会カナディアン・ビューローの本部としてモントリオールを選定する見通しは良いようにみえるにもかかわらず、CPAの英語を話すメンバー（目下多くはない）の中に十分に良い素材が欠けているように思えた。また、彼らがこの都市で非合法の刊行物を得ることに疑念があった。それゆえ私は、決定する前にトロントを訪れるに決めた。

3月20日に発ち、21日にトロントに到着した。マルクスは私をUCPの地区組織者グレイ（GrayとGreyが混在；AFL系印刷労働組合員）と接触させた。グレイに会ったあと私は、翌晩UCPAのD.C.（地区委員会）がもたれること

を知り、マルクスにもCPA地区委員会開催を求めた。そのあと私は彼に、多くの見地よりトロントが共産党と同様に国際労働組合評議会カナディアン・ビューローを形成するための暫定執行委員会の本部にとって最もふさわしい場所だと考えるという結論に達したことも知らせた。それにマルクスは同意し、その火曜〔3月22日〕の夜、両地区執行部からUCPの5名とCPの4名の合同委員会が開かれることになった。そこで私は〔ニューヨークを発つ際与えられたが、実行に移すには詳細でなかった〕これらの指示の概略を述べた後、両者はその実行に向けて共同することに同意し、それから〔暫定執行〕委員会形成の問題に入った。

アメリカ共産主義〔両〕党に属するグループだけが暫定執行部への代表権を有するべきであることが決定された〔そのことは後述するように要注意〕。それから代表権の選出基数の問題に移り、私は統一を妨げた合州国での問題がカナダの運動にも起こるべきではないと考え、代表権は平等であるべきだと主張した〔その選出基数をめぐる合州国での紛糾が教訓として活かされている<sup>(64)</sup>〕。UCP代表も同じ見解を示した。しかし、CPのマルクスは、自らはカナダの党が形成されるまでカナダに滞在することが期待されていると告げ、強く反対し、自らの党員数がヨリ多いゆえに多数の代表権を与えられるべきだと主張した。CPの他の代表もマルクスに味方し、他のいかなる条件でも委員会に入ることを拒否するだろうと思表示した。そこでUCP代表は代表団会議をもち、迅速に行動する必要性から比例代表選出に同意し、CPから3名、UCPから2名、計5名の委員会が形成されることになった。

私は国際労働組合評議会カナディアン・ビューローのためにふさわしい人材を求めて同志たちと会い、最初にルゴフに期待し、〔アトウッドより一足早くCPのための仕事で来ていた〕彼に対して、ビューローのために他の二人のメンバーを探すまでとどまるように頼んだ。ルゴフはイギリス生まれのユダヤ人で、若く積極的な性格で、共産主義理論の実践的知識をもっており、その上、モントリオールの合同衣類労働者組合員で人気があった。彼は私にデントン（Denton）という男を紹介した。一方、私はグレイが一紙の編集経験をもち、

良き書き手であることを知り、もはや編集者をさらに捜す必要がないと判断した。そのグレイもまた書記候補としてUCPからブレナン（BrennanとBrennenが混在）を紹介した。CPのデントンとUCPのブレナンとの間の選択となり、事務仕事を担当して生計を立てていた後者を選び、これでビューローを形成できると判断した。

3月24日、私は3名と一緒に呼び、グレイに編集者、ブレナンに書記、そしてルゴフにオーガナイザーの各役割を分担させた。続いて、仕事の概略を述べ、アメリカン・ビューローの規則の草稿を取り上げ、変更（たいてい必要人員数が減ることを意味する）を加えながらカナダのビューローのための規則を草した。

3月26日、私はスコットからの書簡を受け取った。直ちに返信し、3月29日に再度書簡が届いた。その中に詳細な指示の1枚の写しがあったが、それらの大部分はすでに実行されていた。300カナダ・ドルの銀行小切手も入っていた。

3月29日、私はCPウクライナ連盟執行委員会メンバーから、カナダの党の形成に関して会いたい、との連絡を受けた。同日晚、彼らと会った時、私が実行しつつあるパンアメリカ評議会の計画を彼らは知らなかった。それを彼らは、彼らの合法的な組織が4月1日にトロントで開こうとしつつある代表者大会を利用することによって実行することを望んだ。彼らはまた、ウィニペグの自分たちのメンバーがその計画に熱心で、もしもそれが実行されるならば、トロントに2代表を送る用意があると表明した。私は彼らに、なぜそのような計画を考えるのかを尋ね、彼らがUCPとの統一を大そう切望していることを知らされた。なぜならばカナダにおいて彼らが観察する限り、UCPはCPよりヨリ活動的であるからであった。

私は直ちに、〔ウィニペグから〕代表者たちをトロントに来させることが望ましいであろうと判断した。私はトロントのウクライナ人によって往復費用に150ドルかかると言われた時、来るよう、評議会が費用を出すだろう、と打電するよう彼らに指示した〔末尾の追伸によれば、2代表“Empi & Downly”に200ドルが支払われた〕。3月31日、彼らは到着する。

3月30日に私は（トロントのUCP<sup>77</sup>グループと関係する）フィンランド社会主義連盟執行委員会と接触した。彼らは2,000名の合法メンバーからUCP<sup>78</sup>のためにヨリ多いグループを組織することを準備していた。もしも我々が彼らを欲するならば、全メンバーを非合法に組織するだろう、と彼らは言った。私は彼らの組織が暫定執行部に1代表をもつに十分なほど重要であると考えた。

実は、上述3月29日のスコットからの指示には以下の重要なパラグラフがあった。「その間、第3インタナショナルを認めるすべてのグループの暫定執行部を得るための直接的な努力。CP代表者大会の準備で協同するそのようなすべてのグループは、直ちにカナダの外、合州国の諸党とのすべての組織的な接触をやめなければならない」。その指示は、4月4日の暫定執行部会議で問題とされた。アメリカ共産主義両党からグループを分断する問題およびフィンランド人から1代表を委員会に含めることについて大いに話し合われた。

同会議は議事録が作成されているので<sup>(65)</sup>、それも合わせて以下、記述することにする。

出席者は、CPAカナダ部から3代表、UCPAカナダ部から2代表、ウクライナ連盟から3代表、そしてウィニペグの英語1代表から成り、パンアメリカン・ビューローの代表アトウッドが議長を務めた。開会に際して彼は、なぜウクライナ連盟からの3代表と英語1代表が出席しているかを説明し、そして彼が〔コミニテルン〕本部から受け取った上記の指示について報告した、とあるが、議事録では詳細は記されていない。

CP代表〔マルクスら〕は上記指示に反対した。もしも分断が強化されるならば、両党によって今行われている活動はやむであろうし、必要な文献など何も得られないであろうとの理由で。この指示が、たとえ体面上必要だとしても、実質的にはいかに実行困難であるかは明白であるからであろうか、報告にも議事録にも〔さらに下記の4月18日会議の議事録にも〕指示が承認された形跡は見あたらない。

暫定執行部へ諸グループが入る問題については、アトウッドの意向に反して、最終的に以下の動議が出され、賛成3（CP）、反対2（UCP）の僅差で可決され

た。「本委員会は、既存の共産主義グループ組織にまだ加入していないかなる組織も招待することに反対であると記録にとどめる」。つまり、パンアメリカ評議会からの最終決定があるまでは1フィンランド代表が暫定執行部に入ることは不可となった。

カナダ社会党に対しては、以下の指図でもって党内にレフトウイングを組織するために一人物を選ぶ、との動議が出され、可決された。すなわち、1) 大会で代表されるかもしれない共産主義グループを築き上げること；2) 共産主義グループへ、カナダ共産党CECによって分裂が指図されるまでカナダ社会党内にとどまるように指図すること；3) 各地方のレフトウイングと結びつけることによってカナダ共産党の全体的なレフトウイングを組織すること。その上、レフトウイングの同志たちに対して、カナダ共産党が形成されるまで第3インターナショナル加盟のためのレファレンダムを催促しないよう指示されるべきことも可決された。

運動のスタートに際して、すでにカナダ社会党との組織統合は模索されなくなり、内部からの切り崩しが画策されていたと言えよう<sup>(66)</sup>。

アトウッドの報告の末尾を記しておく。私はパンアメリカン・エイジエンシー代表〔スコット〕がトロントに来ることができないと知った後、上述の問題の解決を図るため4月15日にニューヨークへ向けて発った。

1921年4月18日、一時戻ってきたアトウッドを迎えてスコットは、マルクスを加えて3名だけの会議をもち、議事録も作成した<sup>(67)</sup>。

第1議題は、国際労働組合評議会カナディアン・ビューローの問題であり、グレイ、ルゴフ、そしてブレナンがビューローのメンバーとして仕えることを求められ、彼らはそれに同意した。書記兼オーガナイザーとして行動するルゴフは、当分の間、正規の週給を受け取り、他の2名は無給であった。ビューローは、現下の政治状況に対して採用される半合法ないし非合法の組織として行動ないし機能することになり、また規約類を作成することになった。

第2議題としてのアトウッドの報告が受理され、以下の要約が記録された。

「満足な進展がカナダ共産主義者を統一させるためになされた」。UCPAの2

メンバー、CPAの3メンバー、そしてフィンランド社会主義連盟を友好的に代表する1メンバーから成る暫定執行委員会が組織され、そしてそれは（状況に応じて行動し変更する十分な権限を与えられた）アトウッドによって主宰されることになった。フィンランド代表が正式とならなかつたのは上記の反対があつたからであるが、もしもフィンランド組織のセクションないし一部がいわゆる地下グループを形成し、かくして共産主義組織の規則に従うならば、正式となりうるとされた。

提案された統一代表者大会は、5月半ばに開催する予定であり、約700名（つまりCPAの450名、UCPAの150名、そして他の100名）を代表する30名の代表団が期待される。代表者大会の費用の見積は3,000ドルで、うち2,000ドルは〔パン〕アメリカン・エイジエンシーが賄わなければならないだろう（差額はカナダの同志自身によって調達されるかもしれない）。

第3議題はカナダ大会招集であり、カナダにおける統一代表者大会の時に合州国の大連合が統一されていないならば、両党執行委員会は代表者大会に友好代表（fraternal delegate）を送るかもしれない。アトウッドが代表者大会を主宰する予定である、と。

翌4月19日にスコットは「アメリカン・エイジエンシー議長」〔片山〕へ報告を送り、末尾でカナダ関係を次のように記した<sup>(68)</sup>。

カナダから来る諸報告は非常に有望である。ニューヨークに〔戻って来て〕いるアトウッドによれば、両党のカナダ同志の態度は合州国ほど対立的ではなく、統一された党がまさに大いに成し遂げられようとしている。最終的な統一が成し遂げられるまでアトウッドはカナダにとどまるべきだ。カナダのコミュニスト〔上記『コミュニスト・ブレティン』〕創刊号が出ており、それはカナダの党的臨時委員会によって編集され、費用は1号につき110ドルかかる。次号はここからカヴァーされなければならないだろうが、しかし第3号は彼ら自身によって世話をされなければならないだろうと考える、と。

日付なしだが、「カナダ共産党創立大会招集状」が「第3（共産主義）インターナショナル・カナダ支部として一カナダ共産党の形成の必要性を認めるすべ

てのグループへ」向けて発された<sup>(69)</sup>。

冒頭、「第3インターナショナル・パンアメリカ評議会の権限の下に、CPAおよびUCPAの〔両〕カナダ支部が代表する合同委員会が、一カナダ共産党を設立するための代表者大会開催を準備するために設置された」ことが通知されたが、本状は「第Ⅲ〔インターナショナル〕P.A.C.[sic]の権限の下で発行された」と末尾にある。

コミニテルンの加入条件、いわゆる「21カ条」を言葉だけではなく行動で忠実に支持するグループだけがカナダ共産党形成のための代表者大会に代表を送ることができ、それを望むグループは、代表者大会開催日の2週間前までにこれらの加入条件に関する自分たちの立場を述べる書面による決議を合同委員会へ提出しなければならない。

代表は、各自が代表するグループからの信任状を提示し、そして承認された共産主義グループを代表する2名の代表によって保証されなければならないし、代表選出は、25名のメンバー毎に1代表とする。代表者大会の費用を賄うために、各代表は自らが代表するメンバー毎に1ドル当該機関へ支払わなければならない。

### 3 カナダ共産党創立大会とコミニテルン加盟申請

カナダ共産党創立大会は1921年5月23日にオンタリオ州ゲルフ郊外の小農場で開催された。最初に創立大会の模様を、コミニテルンへ送られ今日ルガスピのИККИ書記局目録の中にある議事録および付随的に7月15日付コミニテルン加盟申請書<sup>(70)</sup>によってみていくが、議事録の末尾が欠落しているため次に、機関紙および数種の研究書によって補足していく。

申請書の冒頭、以下のように記された。カナダ共産党は、コミニテルン・パンアメリカン・エイジエンシーの指令に従って、カナダにおけるすべての既存の共産主義グループから組織された。創立大会は650名のメンバーを代表する22代議員〔いずれも偽名〕から構成された、と。その内訳は、CPAから15

名、UCPAから5名、そしてカナダ社会党から2名である。加えて3名の友好代表がいて、うち2名は合同暫定執行委員会、残り1名はCPAのCECからであった。また、CPAからもう2名の代議員およびUCPAのCECから1名の友好代表が予定されていたが、いずれも到着できなかった<sup>(71)</sup>。

代表者大会が宣言され、大会のための書記および書記補が選出された後、議長〔アトウッド〕が、これは沿海州を除くすべての地域からの代表を伴ったカナダにおける第1回共産主義代表者大会である、と表明した。

UCPAのCECからの挨拶書簡およびコミニテルン代表からの挨拶書簡が読み上げられ、後者は大会に以下の方針を推薦した。1) 中央集権化された組織。2) 来る地方および全国選挙への参加。3) プロパガンダのための外国語諸連盟。4) 外国語諸大会および諸ビューロー。5) 会費を取り扱うべきではない外国語諸ビューロー。6) 合法的表現の必要性と提案されたビューロー。7) OBUと労働組合への友好的な態度。8) 力〔の利用〕の宣伝。

会期が詰め込んで8～12時、午後1時半～5時、7～10時と決められるなどしたあと、以下の委員会が議長によって指定されるべきであるとの動議が出されて通った。つまり、①議案、②綱領、③規約、④プレスおよび合法活動、⑤財政。各委員会は5名（ただし、⑤財政は2名と議長）から成る。

次に、暫定執行委員会報告が議長によって読み上げられ、その中でカナダ共産党形成のためにとられた手段の概略が述べられた。彼はウィニペグ、モントリオール、トロントへの訪問を述べ、トロントを中心に最大の活動を見い出し、それで暫定執行委員会がこの都市に形成されたことに言及した。

諸議案の取り扱いが各委員会に委ねられた〔との簡単な記録の〕あと、②の綱領委員会が報告の準備ができるまで会議を延期する動議が出されて通った。午後2時に再開し、綱領委員会の報告者が綱領案を発表した。綱領は〔後述する統一大会前の〕CPA綱領にもとづかれ、カナダの状況に合わせるために修正された。綱領は一括して代表者大会によって受け入れられた。友好代表も綱領の採択について投票することが許され〔この点でもまた「外からの影響」が指摘されうる〕、全員が賛成投票をした。

①の議案委員会の報告が続き、カナダ社会党を取り扱う議案が、原案に代わって委員会によって推薦された代替議案と一緒に、報告者によって読み上げられ、その理由が説明された。

ここで、議事録は切れている。大会の模様および採択された綱領、規約等は、1921年6月（おそらく前半）に刊行された機関紙『コミュニスト』に掲載された<sup>(72)</sup>。その巻頭記事の以下の書き出しに、エイジエンシーの役割の重要性が端的に窺われる。「カナダの一共産党の形成を成し遂げるために第3インタナショナル・パンアメリカ評議会<sup>マッカラン</sup>の指令に従って、〔アメリカ〕共産党と〔アメリカ〕統一共産党のカナダ支部、および他のカナダ諸グループを代表する代議員が、この国のプロレタリアートが自らの独裁を実現するための準備に第一歩を踏み出すため創立大会へ集った」<sup>(73)</sup>。

以下、数種の研究書によって補足しておく。

大会は1日で終了した。規約と綱領はCPAのそれらを部分的に修正して満場一致で採択され、コミニテルンの規律が無条件で受け入れられ、そして暫定中央委員会委員の選出まで済ませられた<sup>(74)</sup>。速成の感を抱きかねないほどの大会には、カナダの政党の中でいち早くコミニテルン加盟（のための「21カ条」）を討議していたカナダ社会党、サンマルタン指導下のケベック社会党、そしてカナダ社会-民主党の生き残りなどの組織が招待されなかった。それらの組織は6月に出た『コミュニスト』で共産党創設を知って憤慨したが、しかしそれらの漏れは、上述のように、当初から意図されたのであり、組織からの個人ないしグループの引き抜きこそめざされた<sup>(75)</sup>。

規約と綱領についても、いかなる論争もなく「即決」だった矛盾は明らかであった。ベンナー（N. Penner）によれば、規約の中で計画された構造は非合法組織のそれではなかったし、規約もまた7名のCEC選挙を要求していた。満場一致で規約と綱領を承認することと、それらを実行することとは別物であった<sup>(76)</sup>。

既述のフィンランド代表問題が仮の決着で終わったように、共産主義政党の中での外国語連盟の位置づけ問題、それは合州国においては二つの共産主義政党を誕生させ、その統合工作に相当なエネルギーを消耗するほど悩める問題で

あったのだが、その解決へ向けての議論は本大会において最終的には回避された<sup>(77)</sup>。上記加盟申請書をみると、外国語諸セクションは党機構と一体化し、言語別ビューローはCECの絶対的統制下にあるとあり、合州国の外国語連盟ほどの独立性は認められなかった。

議事録でも議長アトウッドの役割の重要性は明らかだが、ロドニイは、アトウッドの演説が会議の基調を決め、彼の権威が続く討論を導き、そして大会の決定に重みを加えた、と捉えた。わずか数日前にニューヨーク州ウッドストックで開催されたCPAへの統一大会もアトウッドによって当日初めて知らされた<sup>(78)</sup>。大会は事実、コミニテルン・パンアメリカン・エイジエンシーのスコットおよびアトウッドの（おそらく大会経費負担も含めて<sup>(79)</sup>）イニシャティイヴなしにはこの時期、実現されなかつたであろう。

カナダ共産党CECの当初の活動は、1921年5月25日から7月12日にかけての議事録抜粋文書が残されているので、それによってコミニテルンおよびパンアメリカン・エイジエンシーとの関係を中心にみていく<sup>(80)</sup>。

定例会議が毎週1回開かれ、特別会議は書記によっていつでも招集されることになったCECは、6月13日の会議でパンアメリカン・エイジエンシー、コミニテルンおよびCPAとの接触を書記ジョンソン（T. Johnson）に指示した<sup>(81)</sup>。6月30日には、パンアメリカン・エイジエンシーの代表（つまりスコット）に手紙を書き、当地に彼が現れる必要性をしきりに促すことを決定した。

そのスコットのカナダ行はひと月後に実現し、7月13日にCECが全委員とスコットとで開催された<sup>(82)</sup>。スコットの提案で、アメリカン・エイジエンシーと共同して、極西での非合法運動の展開とカナダ社会党の分裂を力で押し進めるために一人の男がヴァンクーバーに送られるべきとの動議が通った。その男の派遣については、スコットがニューヨークに戻って該当者を得る見込みに関して報告するまで、一時中断しておくことが決定された（スコットはまた、産業（労働者）活動、合法活動および編集部の人選についても提案をした上で、彼の党務への助言、提案等はその後も続くことになる）。

1921年7月15日付でカナダ共産党は、コミニテルンへの加盟を申請した（注

70)。本文中でまず取り上げたいのは、ひと月前に創刊した『コミュニスト』の副題に「カナダ共産党（共産主義インターナショナル支部）公式機関紙」と先走って括弧内を付していたことに関連することである。既述のように党の綱領はCPAのそれに依拠しており、それゆえ党はこの綱領がコミニテルン加入のための21カ条の要求と一致すると信じるとある。その信念ゆえに彼らにとつては当然の先走りであろうが、「自力」創設という点では問題があつたろう。

次に注目したいのは、党創設にあたって党執行部が早々と「問題と展望」を記していることである。「必然的に執行部はこの初期において、予約を取って〔し〕、仕事を分離して〔する〕など非合法的党組織の技術でもってスタートが切られた」。「しかし」と続き、カナダのプロレタリアートだけで70万人以上に十分達する労働者大衆を吸収するための当面の目標が掲げられ、まず一非合法紙に統いて一合法機関紙が8月15日に刊行予定であることを報告し、続くCECが取り組むべき4項目にわたる具体的な課題は省くが、要は合法的活動と非合法的それ、合法的煽動と非合法的それとを調整することであった。

ここでは、非合法下に創設されたばかりの共産党による合法化政策の推進があまりにも顕著であった。実はそのことは、なぜカナダでは非合法運動から始めざるをえなかつたかという当時の情況に深くかかわっていた。それは1922年8月15日に在モスクワ特別代表ケント（A. Kent）を通じて提出された「コミニテルン幹部会への報告」において以下のようによく説明されている<sup>(83)</sup>。カナダの刑法典が「政府の打倒」やその目的のための手段として「力の利用」の宣伝を禁じている条項〔98条〕を含むという事実ゆえに非合法的存在が必要であるとの合意にもとづかれて共産党は創設された。しかし、すぐに非合法的存在は自らが不利であることを証明した。煽動と宣伝は労働者の中で単純で理解しやすい方法で続行されなければならず、合法的な党ないし機関が必要であることが明白となった。大多数の党員は非合法と合法の仕事の両方が続けられうる方法が必要であることを理解した、と。

そのことを最も率先して理解していたのは、エイジエンシーのスコットであろう。加盟申請書の末尾には署名等が手書きされていた（「ロデリック（G.

Roderick) 議長／ダンカン (R. Duncan) 執行部書記／副署 チャールズ・エドワード・スコット パンアメリカン・エイジエンシー／カナダ、21年7月15日)。が、それには以下の追伸があった。「追伸 私は合法大衆政党のための草案を準備しつつある。この合法政党はひと月以内に発進し、もちろん非合法党によって完全に統制されるだろう。敬具 スコット」

以後、党の活動は「合法大衆政党」創設へ注力していく。

#### 4 合法政党創設へ向けて

カナダ共産党の『ブレティン第2号 6月20日～7月31日の公式報告』の前半に（第1号では報道できなかった）パンアメリカン・ビューローの長〔スコット〕の数日間続いたCEC訪問が、当人による報告の要約というかたちで報じられた<sup>(84)</sup>。すなわち、創立大会へ出席できなかったことへの遺憾が表明され、訪問までひと月かかった。ビューローの目的の概略が述べられ、アメリカ〔大陸の〕国々の諸党が正式に第3インタナショナルによって認められるまで、この大陸での共産主義的諸活動を担当している、と語られた。彼によってすべての文書、報告、そして将来の活動のための計画が吟味され、CECによって準備された計画が批判され、提案がなされた。いくつかの計画は資金不足のためしばらくの間、延期されることになったが、不運にも、その中に合法的仕事のための計画が入った、と。

続く後半の記述の中では、その合法的仕事および財政状態に関するものが目を引く。まず前者については、合法紙『ワーカーズ・ワールド』(The Workers' World) はすぐに現れるであろう（有料）[1921年8月17日創刊]。我々の合法的な大衆行動のための計画は、まもなく党員へ提示されるであろう。その間、我々が言うことができるのは、我々の党の大衆・合法的表現は〔合州国におけるアメリカ労働者同盟と同様に〕カナダ労働者同盟（Canadian Labour Alliance）として知られるだろう。それは共産主義者分子によって統制されたすべての急進的組織の同盟であるだろうし、その仕事の中に他の労働者団体を

参加するよう引き込む努力をするだろう。これは我々の仕事の必要部分であるだろう、というのは我々は地下活動を強いられている状態なので、労働者大衆とすべての接触を失っているのだから。

次に後者については、CECに寄せられた不満はほとんどが資金難の問題だった。最初の月、(空の金庫で活動を開始した) CECは破産状態であった。リーフレットの印刷も金次第であった、等々と。

財政状態に関しては、1922年9月18日にケントを通じてИККИへ提出されたカナダ共産党およびカナダ労働者党(後述)の報告が、共産党創設時にまでさかのぼって詳しいので、以下それによって21年秋頃までを説明しておく<sup>(85)</sup>。

共産党創設時、パンアメリカン・ビューローの一代表〔スコット〕の指導下で、予算が作成された。4名のオーガナイザーのうち既婚男性には週40ドル、独身男性には30ドル〔すぐに西部担当の2名は成果なしで、支給対象からはずされる〕。書記、編集者、技術専門員には週25ドル。主たる支出は非合法機関紙『コミュニスト』〔2号で停刊〕、のちに合法的宣伝・煽動週刊誌『ワーカーズ・ガード』(The Workers' Guard; 上記『ワーカーズ・ワールド』が誌名変更したもので、カナダ労働者党が創設された時『ワーカー』〔The Worker〕に取って代えられる)のためである。カナダ共産党は最初の3ヵ月間、パンアメリカン・ビューローから500ドルずつ3回送られ総額1,500ドルに達する支援を受けた〔第4章で紹介する報告では「各月平均1,000ドル」とあり、後者の額が妥当であることについては第5章で論じる〕。しかし、1921年9月以来、党はいかなる外部からの援助も受け取れず、党役員への支払は不可能となり、彼らは手弁当で働いた、と。

末尾の記述は、1921年9月1日のCEC会議の決定によるもので、そこでは当分の間、党役員の全賃金が9月1日から支払停止となり、また9月分の経費のために各党員に1ドルの特別分担金が生ずることが合意された<sup>(86)</sup>。

1921年9月9日、CEC会議においてスコットを介して届けられたマーシャルことベダハト〔J.A. Marshall=M. Bedacht〕からの報告が読み上げられた<sup>(87)</sup>。マーシャルは1921年6月22日～7月12日にモスクワで開催されたコミニテル

ン第3回大会へのアメリカ代表の一員であった。同大会では「大衆の中へ！」のスローガンの下にコミニテルンは戦術の大転換を遂げはじめたのであり、彼は同じく代表のマイナー（R. Minor）とともに新方針の熱烈な支持者となった（他方、同代表のグールヴィチ〔Н.И. Гурвич〕およびティヴェロフスキイ〔О. Тыверовский〕は賛同せず、前者は帰国を引き留められた）<sup>(88)</sup>。帰国したマーシャルの報告は、アメリカでの活動に関するコミニテルンの態度を説明したものであったと記されているが、明らかに1921年5月に統一したばかりのCPAへの指示を含み、「非合法の組織のなかから、激動のうちにある広範な労働者大衆に近づくためにあらゆる手段と方法を試みるべき義務を負っていること」などに注意を促すものであった<sup>(89)</sup>。

1921年9月22日、CEC特別会議がブラウン（J.M. Brown）の名でマーシャルを迎えて開催された<sup>(90)</sup>。ブラウンはCECの形態と組織に関して、それは単一の組織体ではなく、二つの主要な小委員会、つまり全組織的仕事のための組織委員会と全活動のための政治委員会とを通じて専門化すべきである、と語った。それは彼自身が言っているように、アメリカの共産主義者の一部に大衆からのあまりにも大きな離反があったからであった。

続けて言うには、CECは合法活動に関してコミニテルンの決定に通じなければならないが、しかしそのような決定に盲目的にただ単に従ってはいけない。合法紙に関しては、それは労働者へ自らの言葉で話しかけ、労働者に関わる物事を議論すべきである。イギリスとアメリカの党は〔コミニテルン第2回〕大会で専ら批判された党であったし、その批判はたいてい「左翼主義」（leftism）に対してであった、と。

翌9月23日のCEC会議では、CECの再組織化が最初の議題に上ることになった<sup>(91)</sup>。「同志S」は、二つの委員会が〔コミニテルン第3回大会で採択された〕共産主義諸党の組織化に関するテーゼ〔正確には「共産主義諸党の組織的構築およびそれらの活動の方法・内容に関する指針」〕の中で輪郭が描かれたよう<sup>(92)</sup>に形成されるべきことを勧めた。すなわち、一つは組織委員会であり、全党組織との接触を保ち、合法組織の形成および地下の党によるそれらの統制を

計画するために、役員あるいは方法の変更を勧める。もう一つは政治委員会であり、出版、調査、デモ・集会準備、他との折衝、コミニテルンのための声明準備などをする。

この「同志S」は明らかにスコットである。彼が同月トロントに到着したことが実証されており<sup>(93)</sup>、前日の特別会議でも彼は、小委員会の形成および合法大衆政党の船出に関するCECの新しい計画を説明し、また規律の問題についても語り、将来、厳正な規律が強化されるであろうとのブラウンの警告を繰り返していた。

続けてS（スコット）は、CECメンバーを〔7名から〕9名に増やし、仕事の一部が下部組織へ委ねられるべきことを勧め、さらに次のように提案した。書記の仕事は分けられるべきで、つまり通信書記の仕事を政治委員会メンバーへ、組織の全事項を組織委員会メンバーへ、そして記録書記および出納係を現在の書記へ、それぞれ委ねる、と。

かくして、9名への増員が認められ、組織委員会にジョンソン、ベイカー（Baker）ら5名、政治委員会にケントら4名がそれぞれ選出された。

コミニテルンへの代表派遣については、それが可能になるまで、CPAのカーコターフェルド（J. Carr=L.E. Katterfeld）へ、彼が我々の代表として〔モスクワで〕行動するのを権威づける信任状を与えることが決定された。

採択された決議によってさらに内容を補足しておくと、ИККИの指令に合致し、またコミニテルンのテーゼに従って、CECは地下の党の統制に沿い、かつその下で合法的大衆政党を形成することが決定された。二つに分かれた委員会のうち、政治委員会は合法政党の大会を呼びかける準備をし、組織委員会は合法政党のための規約を準備することになった。

1921年9月25日のCEC会議において、〔上記マーシャル報告を受けて準備されることになった〕コミニテルンのための報告が書記によって読み上げられ、スコットによるある程度の変更が受け入れられて採択された<sup>(94)</sup>。

翌9月26日に同報告は最終的にまとめられた<sup>(95)</sup>。第1項目「政治状況」に続く第2項目「書記報告」の書き出しは、こうである。「我々の最後の報告以来、

我々はパンアメリカン・ビューローから財政援助を受け続けており、これは6月、7月、そして8月の各月平均1,000ドルに達している、大会の費用は別として。8月後半に我々は、そのような支援すべてが打ち切られつつあるとの知らせを受け取った。CECは直ちに党を自立化する政策を採用した。……緊急手段としてすべての党役員の賃金が打ち切られた」。

続いて、上記9月23日会議での5細目の決定が掲げられているが、未紹介の第5細目を引用しておくと、「カナダ社会党の中に分裂を強いて、その領域においてCPC〔カナダ共産党〕の強力な組織を築き上げるために、P.A.B.[sic]のスコットが西部カナダで3ないし4カ月過ごす許可を求める」とあった。当初の決定では“for a few months”とあったのが、少しだけ延長されていた。

第5項目「合法活動に関する報告」では、こうある。パンアメリカン・ビューローを通じて伝達されたコミニテルンからの指令は、我々の仕事の合法的局面が党形成時よりもヨリ精力的に取り上げられることを結果としてもたらした。そのようなプロジェクト〔合法政党創設〕の船出は、コミニテルン第3回大会の決定とそのような党機関の①形態と②戦術に関して明確な指示を提示するであろう1代議員の到着後まで延期されたが、マーシャルが最近、これらの指示を伝えた。合法政党の船出は加速されるであろう、と<sup>(96)</sup>。

1921年11月1日、カナダ共産党は無署名で以下の文書を全党員に向けて発した<sup>(97)</sup>。CECはコミニテルンの政策に従ってできるだけ党の合法的表現を形づくることを決定した。この目的のために近い将来、合法政党の組織会議へ代表を送るための招請状が約12の地方組織へ送られるであろう。直ちにあなたがたの合法組織の名前を、その書記の名前と住所とともにどうか私に知らせ、そしてこの組織があなたがたの地方党組織によって統制されているかどうか、はっきりと語ってもらいたい。もしもあなたがたが現在いかなる合法組織ももっていないならば、あなたがたは直ちにそれを形成し、会議へ代表を送るためにそれを利用すべきだ。そして会議後、これらの地方の合法組織は新しい合法政党の地方支部となるであろう、と。

さらに、大会開催の時と場所の詳細は定期的な党経路を通して与えられるで

あろうとして、党員20名毎に1名を基礎に即刻代議員を選ぶことが具体的に指示された同種の文書「代表者大会招集」がCEC書記ジョンソンの名で全党員へ発された<sup>(98)</sup>。ルガスピが所蔵する2部のうち1部には手書きで「1922年2月3日」と記されているところからみて、大会開催の準備に時間を要していたことがわかる。

その間、11月19日のCEC会議には、スコットも出席し、合州国において合法政党の呼びかけを出すための最終合意に至る経緯、および内部からの反対に対抗するために取られた処置を語った。続けて彼は、この問題に関するコミニテルンの態度を十分に概略し、コミニテルンの明確な指示をカナダに適用する手段に関する提案をし、そして少数の非政党代表を含めるべきである予備会議が、大会の呼びかけを出し、暫定執行部を選出すべきであることを勧めた<sup>(99)</sup>。

この時期モスクワでは、1921年12月10日のИККИ会議においてCPA代表カーが、上記のようにカナダ共産党より委任されて、カナダ共産党のために報告をし、同党的コミニテルンへの受け入れを提案し、この問題を幹部会の直近の会議の議事日程に入れてもらうことを要請した<sup>(100)</sup>。早速、12月18日の会議でИККИは、カーの報告を聞いた後、カナダ共産党のコミニテルン加盟申請を満場一致で承認し、そのことは12月28日にИККИ書記アンベルト・ドゥロー (J. Humbert-Droz) によってカーを介してカナダ共産党へ伝えられることになった<sup>(101)</sup>。

同書簡には、こうあった。コミニテルンに正式に加盟した支部になる前に、あなたがたの若い党はブルジョワジーの迫害に苦しんできたし、あなたがたは一非法組織を創ることを余儀なくされた。非法活動は共産主義的訓練と教育の優れた教師であるけれども、それは党を労働大衆から孤立させるおそれがある。非法共産党の絶えざる努力は、非法的な党によって統制された合法組織の創造のためのあらゆる機会を利用することにあるべきだ。我々に届いた報告から我々は、このことがあなたがたが採用した戦術的方針でまさにあるのを知っている。我々はあなたがたに非法的な党を清算することなしに、この道に続くように勧める。その党は、あなたがたの合法的な活動の隠されている

がしかし必要な発電機であり続けるべきだ。

続いて、農民運動および労働組合運動へ力を注ぐことを呼びかけ、カナダ社会党への工作を勧め（ただし、多数を獲得できないならば、分裂工作もやむなしとみなし）、最後に、「大衆の中へ！」を再度訴えた。

この加盟申請受諾の書簡は、カナダ共産党会議（日付なし）で読み上げられ、これを機に、党綱領への修正が採択された。「合法活動」の項をみると、「A」〔合法政党〕の全執行部は“Z”〔共産党〕のメンバーが多数とならなければならぬ。……我々の党は、機械的な統制のためではなく、我々メンバーが“A”的真の指導者として独り立ちすることができるため“A”を統制しなければならない」とある<sup>(102)</sup>。

1921年12月9日には、共産党幹部会議がスコットに指揮されてモリアーティの自宅で秘密裡にもたれ、2日後予定されている合法政党創設のための予備会議の主要方針について合意がなされた<sup>(103)</sup>。

そのカナダ労働者党（Workers' Party of Canada）創設のための予備代表者大会が、1921年12月11日にトロントの労働者会堂で、マクドナルドを議長に選出して公に開催された。「カナダ労働者党宣言」によれば<sup>(104)</sup>、同予備大会でウイニペグ、モントリオール、ゲルフ、そしてティミンズ間の地点から51名の信任状をもって派遣された代表は、満場一致でカナダ労働者党創設の呼びかけを承認することを決定した。予備大会の全般的感情は、力と行動と感情のこもった党が今よりヨリ緊急の時は決してないというものであった。

ここで、スコットがわざわざロシア語で作成し、ИККИ幹部会宛に送っている1921年11月15日～1922年2月5日の期間の活動報告を取り上げる。他の史料に見あたらない記述もあるので、それによって予備代表者大会〔彼は準備会議と表記している〕以降について補足説明をしておく<sup>(105)</sup>。

党No. 2〔労働者党〕の形成についての案が党No. 1〔共産党〕のCECによって作成され、承認されて以来、それは同志たちの審議に委ねられた。全党員集会は満場一致で我々の案に賛成した。そしてこの準備会議は、12月半ば〔11日〕に（3,000名の組織された労働者を代表する）<sup>マツ</sup>54名の代議員で開かれた。

準備会議では我々の議案、暫定的な綱領・規約が満場一致で採択され、暫定執行委員会委員が選出され、3ヵ月の間に党No. 2の創立大会を招集することが決定された。

ここで補足説明を中断して、上記「宣言」の中にあったカナダ社会党員への特別アピールを取り上げると、「1年以上、あなたがたの党は第3インターナショナルへの加盟問題について話し合ってきており、その全党員選挙が今まさに提起されつつある。このやり方は……疑いなく前へ進むのに大いに好ましい」と記されていた。

依然、社会党への関心は高く、だからこそ、補足説明に戻って、準備会議直後に、私は西部へ、カナダ社会党の司令部があるヴァンクーバーに派遣された。到着後すぐに、カナダ社会党の全執行委員会委員がいるヴァンクーバー支部において15名から成るレフトウイングが形成された。がしかし、第3インターナショナルへの加盟問題に関する投票の結果は、賛成24、反対37であった。〔社会党から〕切り離された小グループは、2週間の間に120名の英語を話す同志と50名の外国語を話す同志とに増大した。

そのほかに、私はさまざまな組合指導者との会議をもった。OBUヴァンクーバー支部は、活動を停止し、党No. 2へ加盟することを決定し、同時に、後者へ逆に労働組合に加盟することも勧めることを決定した。

次にウィニペグでは、スコットはゼネストの戦闘的指導者で投獄もされたラッセル（R.B. Russell）と接触した。長く続いた説明と討論の後、ラッセルはスコットを助けることに同意した。〔到着〕1週間目に、ウィニペグとその近郊の社会党地域支部は、社会党ヴァンクーバー本部から脱退し、党No. 2に加盟した。2週目には、ウィニペグの我々の支部は400人まで増え、その中の指導者にラッセル、バーソロミュー（H.M. Bartholomew）、そしてメイス（T. Mace; OBU書記長）がいる。

ヴァンクーバーとウィニペグのほかに、新しい支部が西部カナダのすべての小都市に組織された。全党員数は4,000人となった。中央および地区執行委員会の4分の3は英語の分子から成り、4分の1だけがフィンランド人、ウクライナ人

イナ人などから成っている。このようにカナダでの我々の運動は、最初からカナダの特徴を示しており、この点において〔ロシア人などスラブ系諸民族の諸組織が強い影響力をもつ〕合州国とまったく正反対である。

私はただ「分裂と創造」の自らの仕事を終えたにすぎない。このような仕事のおかげで我々は、60名の全権代表と10名の審議権代表から成るであろう創立大会の招集にすでに至るまで労働者大衆へ入り込んでいる、と〔ただし、OBUとの連繫に関するスコットの判断は、いまや“One Big Union”は“One Small Union”となっており、4,000人まで減少し、反-ボリシェヴィキ分子によって統制されている、と厳しかった〕。

創立大会直前の1922年2月13日の党CEC会議にも「同志S.〔スコット〕」が出席し、彼の指導性は発揮されている。すなわち、彼による“A”の報告はたいで財務的性質のものであった。同志はいくつかの質問をし、予想される代議員に関して議論が起こった。スコットはそれから、合州国のNo. 1〔共産党〕とNo. 2〔労働者党；1921年12月23-26日ニューヨークでの創立大会で創設された〕の状態について報告した。彼は将来のための計画の概略を述べ、過誤についても率直に述べた。共産党大会の第1会議を2月15日に開くことが合意されたが、それもスコットの推薦にもとづくものであった<sup>(106)</sup>。

## 5 カナダ労働者党創立大会

1922年2月17-20日、カナダ労働者党創立大会が、63代議員と友好代表が出席してトロントの労働者会堂で開催された。採択された綱領は、創設されたばかりのアメリカ労働者党のそれとほとんど同一であった。既述のように、直前の複数の会議でスコットの指導性の下、主要方針等は固められていた。大会で選出される全国執行委員会委員の候補者名簿もまた同様だった<sup>(107)</sup>。

同創立大会の模様は、翌3月15日に創刊された公式機関紙『ワーカー』創刊号に以下抜粋するように詳しい<sup>(108)</sup>。

2月17日にヴァンクーバーの代議員カヴァナを議長に開会し、議長の開会

演説は、ロシア革命とロシアにおける労働者共和国の樹立以来、労働者の心の中にさっと広まった変化の重要性についてであった。続いて、書記モリアーティが12月11日の予備代表者大会以来なされた組織活動のあらましを伝えた。

労働組合に関する議案をめぐる討論だけが唯一長引いた。それはアメリカ労働者党を代表してシカゴからやって来たブラウダー (E. Browder) の演説に起因し、同議案の中で AFL 系労働組合への参加とそこでの戦闘的ランク-アンド-ファイルの構築が謳われていた。〔コミニテルンの統一戦線への方針転換による〕その方針は、あたかも OBU の否定と受け取られ、ラッセルだけが猛反対した<sup>(109)</sup>。続く議案は、ほとんど満場一致で採択された。

全国執行委員会には以下の11名が選出された。カヴァナ、スミス (J.G. Smith) (以上、ヴァンクーヴァー)；マクドナルド、モリアーティ、バック (T. Buck)、マグワイア (T. Maguire)、ブラウン (A. Brown)、アームストロング (M. Armstrong) (以上、トロント)；ギルバート (H. Gilbert) (ウイニペグ)、ビュヘイ (モントリオール)、ブルース (M.L. Bruce) (レジーナ)。そのうちモリアーティとマグワイアはそれぞれ書記と書記補となった。

党指導部は主としてアングロ-サクソン系白人とユダヤ人から成ったが、党員数の大半はフィンランド人とウクライナ人が占めることになった。すなわち、それぞれ自らの言語別支部をもつフィンランド・セクションとウクライナ・セクションが、党内に連盟関係を基礎として形成された。前者はヒル (A.T. Hill) の指導下にカナダ・フィンランド社会主義組織 (1911年創設) が加盟したため60支部、2,000名強を擁し、後者は4支部、約400名であった。ウクライナ・セクションが少なめなのは、ウクライナ労働者会堂協会が直接加盟しなかったからであるが、にもかかわらず同セクションは党の財政援助を不釣り合いなまでに分担することになる<sup>(110)</sup>。

スペクターは閉会の挨拶でその偉業を次のように要約した。「カナダ労働運動において初めて、東部と西部の階級意識のある戦闘的な労働者が、全国規模で政治行動のために統一された党を築くことを決意した」<sup>(111)</sup>。それは同党公式機関紙創刊号に掲載されたのであり、その少し後では「行動の党——大衆

の党であることをめざすつもりである」ことが表明されたし、巻頭の大見出しひには「大会においてカナダ労働者党は、統一戦線および労働者共和国に賛成を宣言する」とあった。

カナダ労働者党創立大会の最終日からさかのぼって1921年5月25日までの9カ月間のカナダ共産党CECの包括的な報告が作成されている<sup>(112)</sup>。以下、各地区や言語別組織の活動状況および繰り返し部分は省いて、抜粋して紹介する。

カナダにおける運動の地理的条件は、広大な領土と少ないメンバーでもって財政的および組織的問題を極端に困難にしている〔続く、最初の3カ月のあと、無給状態等は既述〕。党機関紙〔『コミニスト』〕の二つの号を刊行後、CECはコミニテルンがヨリ公然たる活動と表現を望んでいることを強調するP.A.B.[sic]からの緊急メッセージを受け取りはじめた。計画は即座に立てられ、それは結果として8月に“B”<sup>(113)</sup>を出現させ、公式機関紙は資金不足のために停止した。

8月の月に我々が直ちに〔ソヴェト・ロシア〕飢餓救済事業を組織し、我々の主要な活動の一つとすべきというコミニテルンからのメッセージに応えて、CECは諸グループへ全般的指示を送り、合法活動のための下部委員会を通じて多くの労働組合や労働組織の援助の下、トロントにセンター〔カナダ労働者同盟であろう〕を組織した。

この国における革命運動の発展の見地から、“A”〔労働者党〕の形成は我々の現在の活動の主要要素である。早くも7月にCECは、合法的表現のための計画を立てることによってヨリ公然たる仕事を求めるコミニテルンの呼びかけに応えたが、しかしそれらが実際に実施される前に、公然たる組織は一つの党であるべきことを推薦する新たなメッセージが受け取られた。この問題に関して密な接触がP.A.A.とで保たれ、〔創設予備〕会議のための最終的な取り決めがなされる11月までに、いくつかの変更が時々なされた。新しい全国組織は、それを通じて我々のさまざまな活動を調整するためのセンターとして力を尽くすべきであり、それで共産党が“A”的内部で着実に成長しながら各々は他を築き上げるのを支援するであろう。

報告の最後は財務報告であり、収入だけをみると、総収入は5,512.97 ドルで、そのうち3,168 ドルがP.A.A. からであった。

まず3,168 ドルから判明するのは、アメリカン・エイジエンシーによる1921年6-8月の支出が、共産党創立大会経費を除き、1,500ではなく3,000 ドルであることである<sup>(114)</sup>。次に取り上げたいのは、9カ月間のカナダ共産党の全収入に占めるエイジエンシーからの資金援助の割合が57.5%であることである。当初3カ月間の同割合は約85%にも上るものであったのが<sup>(115)</sup>、同資金援助停止後のカナダ側の自助努力は評価されるべきで、無償行為は除き、最終的には2,344.97 ドル、42.5%が自前となった。

その自助努力は、パンアメリカン・エイジエンシーがコミニテルン本部から支給された資金総額に占めるカナダ共産党への支出額の割合をみるとことによっても裏付けられる。エイジエンシー創設決定時の計画案では「3カ月で10万〔ドル〕支給」であったが、目下私が確認できたエイジエンシーの受領総額は約86,000 ドルである<sup>(116)</sup>。それら仮の上限値と下限値で3,168 ドルを割ると、約3.2～3.7%となる。エイジエンシーはそのほか、既述のように共産党創立大会準備費のうち3分の2の約2,000 ドルを賄ったとみられ、アトウッドの既述のカナダ行の費用1,330 ドルも加えると、カナダへの支出総額は（不明のスコット自身の活動費、人件費等を除いて）約6,500 ドルと推定される。それを上記両数値で割ると、約6.5～7.6%となり、それでもいかにカナダへ振り分けられた資金が少なかったかがわかる。

カナダ労働者党創設後6カ月間の党員数の増加は、顕著であった。1922年8月付でИККИ幹部会に宛てた党執行委員会報告書によれば<sup>(117)</sup>、“A”の創立大会で、<sup>ママ</sup>65名の代議員が3,000名の共産主義的傾向の労働者を代表した。1922年8月時点での“A”的党員数は4,811名であり、6カ月間に1,811名の増加である。その内訳は1,600名が英語を話す、イギリスかカナダ生まれであり；2,000名がフィンランド人で、その多数は帰化し；700名がウクライナ人で、75%が帰化し；246名がラトヴィア人、ユダヤ人、イタリア人である<sup>(118)</sup>。

スコットの関与は今しばらく続く。1922年8月段階でИККИ幹部会へカナダ

共産党CECは次のようにスコットの滞在を要請するほどであった。「我々はあなたがたに、同志Sc.〔スコット〕が現地オーガナイザーとして少なくとも6カ月間ここにとどまることを認可するよう訴える。同志スコットは我々の運動が必要とするものを知悉しており、彼の駆動力とつながった経験は、彼を大切なオーガナイザーにし、彼のもう6カ月間のここでの存在は、すでに彼が我々の隊伍内にかなりの影響力をもってきているように、我々に大いに裨益するであろう」<sup>(119)</sup>。

その時期のスコットの活動は、すでに解散されたコミニテルン・パンアメリカン・エイジエンシー後の話であり、本稿はここまでとし、まえがきで述べたように、エイジエンシーに関する問題に絞ってまとめの考察を最終章で行うこととする。

## 6 パンアメリカン・エイジエンシーの総括に向けて——結びにかえて

アヴァクモヴィチは先駆的な研究でスコットへの妥当な評価を次のように下していた。「彼がカナダに滞在の間（1921-23年）およびモスクワでのカナダ共産主義者との会話の中で与えたアドバイスは、無視されえなかった」<sup>(120)</sup>。そのことが今回、公開された新史料をもとになされた本研究によってヨリ実証的に確認されたことになる。

1931年に官憲によって作成されたと推定される「カナダ共産党 全体報告」<sup>(121)</sup>には、「労働者党1922年〔創立〕大会の報告は、スコットがその間ずっと支配していたことを示している。1922年と23年の間、彼はカナダにおける共産党を築き上げるために精魂を傾けた。スコットは1923年3月にカナダを離れた……」とある。

同報告の重要な情報源の一つとなったのが、エセルワイン（J. Esselwein）の偽名で1919年にレジーナのOBUに加わり、21年にカナダ労働者党の役員となった特異なRCMP秘密諜報員レオポルド（J. Leopold）からの情報であった<sup>(122)</sup>。彼からの情報にもとづくRCMP長官代理からイギリス諜報機関への1922年9

月11日、20日付各報告での以下の記述は、内情に通じていたがゆえに興味深い。<sup>(123)</sup>

「モスクワからのスコットの〔帰国〕命令は撤回され、彼は大西洋のこちら側にとどまり、彼の大部分の注意をカナダにさくつもりである。／私は大そう有能なオーガナイザーが結局、共産主義という機械の中の小さな一歯車であるところの管理に拘束されていることを説明するのにむしろ当惑する。しかしながら、彼は喜んでいるように見える。／彼はミシガンのはずれ〔ブリッジマン〕での共産党大会へアメリカ当局によって最近〔1922年8月22日に〕なされた襲撃から逃れて来た」。

「一見して、この国は合州国と比較してモスクワの目に重要とするにはあまりにも小さい。スコットがCPAよりもカナダ共産党にヨリよく喜ばれているという事実は、この見地から事柄を考えるところの人々にとってほとんど何も意味しないだろう。大そう深くこのことは感じられているので、カナダの過激派は、合州国での反乱に先立ってここで革命を試みることは無益であろう、なぜならば、たとえそれが成功するとしても、アメリカ人が干渉し、それをつぶすであろうから、との見解をしばしば表明する」。

いずれの記述も、本稿で取り上げた時期の少しあとのスコットの活動の一端を鮮明に伝えている。スコットがカナダ共産党の創設および初期活動に及ぼした影響をその受け手側も含めて包括的に考察する必要性を私自身感じるけれども、ここでは割愛させてもらい、早速、パンアメリカン・エイジエンシーの総括に向けてまとめの考察に入ることにする。

前著でパンアメリカン・エイジエンシーの問題点の主なものを列記しておいたので、本稿でもその7つの各項目に沿ってカナダの場合、どうだったのかをまとめておくことにする。

- 1) ИККИとエイジエンシーの関係について、その関係はカナダには直接及ぶことはなかったので、考察外。
- 2) ИККИから在外ビューローへ指令系統が二つあったことについては、カ

ナダの場合、エイジエンシーの、しかもスコットだけからの指令であった。カナダ共産党の在モスクワ代表はCPA代表が兼任し、第3回コミニテルン大会での政策転換は、CPA代議員のマーシャルが帰国後カナダを訪れた際、伝えられたのだが、マーシャルとスコットは共同歩調を取っていたので、指令系統の混乱はなかった。

3) CPAとUCPAとの間の対立は、各カナダ支部まで深刻には及ばず、党員はウクライナ人、フィンランド人など「外国人分子」が「英語を話す分子」よりも多かったけれども、既述のように後者が執行部の4分の3を占めた。これに関連して、1922年8月26日のИККИ アングロ-アメリカン-コロニアル・グループ第17回会議の第1議題で「カナダ問題」が取り上げられ、ケントは既述の「コミニテルン幹部会への報告」を提出し、それを補足する形で次のように発言している。共産党内の「外国人分子」は労働者党の創設に反対していたし、これまで起訴されたり追放されたりしてきた「外国人」は、労働者党執行部には入らず、共産党の外国语セクションのメンバーとしての活動を継続していた、と<sup>(124)</sup>。微妙な「棲み分け」ではあるけれども、両グループ間の対立は未だ表面化していなかった（第6項目参照）。

4) エイジエンシーの権限の分散を引き起こした片山とスコットの対立については、前著で記したように、片山とは対照的にスコットは（最初の報告を除いて）多くを語らなかったけれども、独りでかなりのことを成し遂げたことは間違いない。片山はスコットがメキシコに来ないことを約束が違うと糾弾しつづけたが、スコットの（アメリカ合州国での成果は乏しいものの）カナダでの活動とその成果をみると、スコットなりにとどまる理由が十分にあった（第6項目参照）。「あなたは何度も電報で、また書簡で『直ちにここに来なさい』と言ってくる。しかし、親愛なる同志よ、私は……混沌と備えがない状態のまま当地ですべてを置き去りにすることはできない」とスコットはいら立ち気味に片山へ1921年9月中頃書き送ったけれども<sup>(125)</sup>、約束違反は違反なのだからきちんと説明すべきであったろう。

5) エイジエンシーの権限については、カナダ共産党創設前夜から事ある毎

にスコットに指示を仰ぎ、また彼の方もその役割を十分に果たしたことから、その権威は掛け値なく認められた。しかし、スコット自身が1921年夏頃からエイジエンシー議長片山およびフレイナと対立していき、権威は失墜させられた。その一方で、カナダのためにエイジエンシーの資金があてにされたことは、合州国の場合と同様だった（第7項目参照）。

6) エイジエンシーの運動の成果をカナダでみると、共産党、さらに労働者党の創設へのスコットのイニシアティヴは決定的に重要であった。彼自身もその功績を自画自賛している（第7項目）。党創設を実現したという意味では、エイジエンシーの最も顕著な成果と言えなくもない。

カナダ共産党が、いかに多くをスコットに負っていたことか。まず挙げられるべきは、エイジエンシー資金による既述の創立大会準備とその後3ヶ月間の活動費の財政援助である。それに劣らず重要なのは、スコットがいずれの段階においても党の基本路線の策定に関して実質的に関与し、その他細々とした指示も与え続けたことである（途中からはコミニテルン第3回大会へCPA代表として出席し、そこで決定された統一戦線を先取りする方針を持ち帰ったマーシャルの協力を得たが）。そのことに関連して、カナダ共産党からコミニテルン本部への文書類の送付は、スコットを介してであったし、後者から前者への指示等も同様であった（途中からはマーシャルの協力もあった）。それだけではなく、カナダ共産党の活動の一部をもスコットは担った。とりわけ西部地区での活動（カナダ社会党切り崩しと同党員の獲得工作など）を彼は期待されていた。

しかしながら、合州国との共産主義両党の統合およびメキシコの共産党創設のそれぞれの遅延と比べて、カナダには好条件があったことを見落としてはならない。すなわち、

①カナダと合州国は地理的に隣接し、アメリカ両共産主義政党はそれぞれカナダ支部をもち、英語という共通言語をもつ両支部が率先してカナダ共産党創設にあたった。さらに、カナダ労働者党の創設への経過が合州国でのアメリカ労働者党創設のそれとほぼ同時進行であったことが、後者からマーシャル

らを介しての前者への影響をヨリ容易にした。

②ウクライナ人とフィンランド人が党内で多数を占める「外国人」であったが、彼らはCPAロシア人連盟のように強力な言わば「圧力団体」の役割を果たすことではなく、アングロ-ケルト系の活動家が主導した。共産党員の大多数は英語を話せない移民であったとのケントによる「コミニテルン幹部会への報告」は既述したが、その中には、ほとんど英語を話せない党員は労働者大衆の中で活動的でもなく、人気もなかった、とあった（注119）。それは当該移民の政党との関わり方に合州国の場合と大きく異なる特徴があったからである。つまり、ウクライナ人の場合でみると、党との関係は「いくぶん曖昧」で、彼らは自らの指導者を通じて関わっていたにすぎない。指導者もまた、党員数に占める高い割合および党創設時からの党員であるにもかかわらず、党大会に対して正式な代表ではなく友好代表ないしウクライナ・セクション代表としての参加であった。彼らの大衆組織にもとづいた独立性は高く、彼らからの党批判も1924、25年以降のいわゆる「ボリシェヴィキ化」以前にはめったに聞かれなかった（<sup>126</sup>）。ここに、英語を話すアングロ-ケルト系の指導者を中心に党がまとまりやすい背景があった。

7) 前著で考察したように、両アメリカ大陸のネットワークがエイジエンシーのイニシアティヴで構築されるにはあまりにさまざまな障害が立ちはだかっていた。カナダ共産党もまた、そのネットワークに関与することはなかつた。「しかしながら、我々はあなたがたが〔赤色労働組合インタナショナル創立〕大会で出会ったUSA、カナダ、そしてメキシコからの代表を送ることができた」（<sup>127</sup>）と片山がジノヴィエフ宛1921年9月24日付書簡で誇った事業が、唯一ネットワークの成果にみられそうだが、既述のようにカナダの場合はアトウッドが最初に派遣された時点で人選は決まっていた。ネットワークの具体的な可能性としては、以下で紹介する片山、フレイナが呼びかけたパンアメリカ労働者連盟大会反対キャンペーンであろうが、それは仲介の労を積極的にとろうとしなかったスコットにも問題があった。スコットは合州国ばかりか、それ以上にカナダでの活動について、最初の時期を除いて、独自の活動を展開した

のであり、その例を二、三挙げて考察することにする。

1921年7月23日付で片山は、アメリカとカナダの両赤色労働ビューローへ伝達文書を送付した。それは「ビューローのため」に即時求められる8項目から成る行動要請であり、今秋開催予定のAFL系のパンアメリカ労働者連盟(Pan American Federation of Labor)大会への即時反対キャンペーンが主眼だった(第1項)。具体的には、同大会に反対する闘争の必要性に関して南北アメリカの労働組合へ宣言を発することが意図であり、そのための草稿の提供が求められた(第2項)。さらに、「カナダおよびUSAにおける労働者活動をラテンアメリカにおけるそれと結びつける」ことが肝要で、そのための提案あるいは計画の送付が求められていた(第6項c)。しかし、カナダからの返答はなかった<sup>(128)</sup>。8月2日には片山はケリーの名でブレイことスコット宛書簡の中で、「……我々はカナダとの直接的な関係をまだもっていない。以前、その事についてあなたに書いたが、しかし彼らは彼らの住所を我々に送っていない」と不満をもらした<sup>(129)</sup>。

この時期、スコットおよび彼の指導を受けて創設されたカナダ共産党は、まったくと言ってよいほどパンアメリカ的活動の意識をもっていなかった。その一方で、再三にわたりスコットから片山、フレイナへの資金要請だけは頻繁になされた。例えば、1921年9月16日、ヤヴキの元に届いたブレイの書簡には、「我々は破産している」とあり、詳細は省くが、「どうか私に1,000〔ドル〕を直ちに送ってもらいたい」とあった<sup>(130)</sup>。さらに9月26日には、トロントから二つの電報が届いた。一つ目はブレイからのもので、「〔私〕は破産している／どうかニューヨークに1,000送ってほしい／私に〔カナダ社会党を〕分裂させ〔我々の党を〕築くために〔カナダ〕西部に行かせよ／そのことは熟練した男を要求している」とあった。もう一つはカナダの会社〔共産党執行委員会〕書記ダンカンからのもので、「次の4ヵ月ヴァンクーバーで社会党を分裂させ我々の党を築き上げるためにブレイがいることは極めて必要で〔ある〕」とあった<sup>(131)</sup>。

当初、片山はトムソン(フレイナ)と相談し、300ドルを後者が送るこ

とを決めていた。少額となった理由は、再三の指令にもかかわらずスコットが未だメキシコシティに来ず、また自らの活動に関する完全な財務報告を送ってきていなかったからである。ところが、上記電報が届いた際、片山はフレイナがまだ送金していないことを知った。結局、突然の資金要請であり、以前まったく聞いたことのない4ヶ月の派遣であるゆえに送金しないこととなった<sup>(132)</sup>。

ブレイは1921年9月半ば頃（おそらく上記9月16日書簡の直後）にヤヴキに宛てた書簡の中でも、「私は彼ら〔カナダ共産党員〕を9月まで援助したが、しかしもはやできない。私はあなたがたに完全な報告を送るつもりだ、死ぬほど嫌惡するけれども。なぜならば、そのような文書が送り届けられるにはこの住所は非常に届きにくいと私は絶えず感じている。当地の党も同じ不平を言っている」とある<sup>(133)</sup>。

後半は言い訳にもならない。なぜならば、この時期スコットは資金援助の書簡、電報を重ねて送っているし、片山の質問に答えないままの書簡も重ねて出しているのだから。それ以上に、この時期すでにエイジエンシーの「本社」による廃止の噂や片山のモスクワへの呼出を当然のごとく受けとめていた<sup>(134)</sup>スコットにとって、「完全な報告を送るつもり」すら疑わしい。

1921年10月10日、片山とフレイナはИККИ小ビューロー宛報告の中で、カナダについて次のように言及した<sup>(135)</sup>。我々は手元の基金を以下のしかたで処理することを決定した。1) 非常に少ない部分がカナダでの仕事のために使われるかもしれない。2) ヨリ大きな部分がメキシコの党に。3) ヨリ少ない部分が南アメリカに。カナダにおける党は弱く、なお分派的である。我々はヤンセン〔ヤンソン〕があなたがたに合州国およびカナダでの彼の活動についていかなる報告を送ったかどうか知らないが、しかし彼が送ったとしても、彼は我々に決して写しを送っていない（最初のカナダの報告を除いて）、と。

実際、その直後の10月15日にスコットはニューヨークからメキシコ・シティを経ずに、ジノヴィエフへ長文の報告書を出している<sup>(136)</sup>。その中で、スコットは、「カナダでの全仕事が私の双肩にかかっていた。最近、私は非合法共産党の形成に成功した」ことを誇り、以下のように続いた。

〔なぜ合法政党より非合法政党が先かと言うと〕事実は、アメリカの両共産党がカナダにおける地下組織の支部を厳格に組織してきたからであった。二つの相闘う党に属するこれらの支部は、カナダの大会によって統一された。いまやこの細胞はすでに組織されたので、この小さな地下組織の共産党中央委員会は、カナダにおける一合法政党を組織する大会の招請状を準備してきて、間もなく発するだろう。

カナダの同志の中では合法政党の形成に対するいかなる反対もない〔既述のウクライナ共産主義者の反対ないし消極性は視野に入っていない〕。反対に、西部地域では非合法政党に反対する強い感情がある。というのは西部の人々は東部の州の労働者よりもヨリ政治的自由をもっているから。カナダ社会党は一体化した組織としてなお活動し続けている。その指導的機関は〔コミニテルン加入条件〕21カ条の受入に反対しているが、しかしそれへ好意的に向かうメンバーもいる。私は資金を得るやいなや、西部のヴァンクーバーへ行き、社会党に迫ってこれらの条項を明確に陳述しよう。換言すれば、私はその革命的セクションを将来の革命的カナダ共産党へ統一するために分裂させるだろう。私はまた、私が次の4カ月間、非合法組織に所属するオーガナイザー長の資格で、そして合法政党の大会招集のためにカナダにとどまることは絶対に必要だと考える。

最後に、4項目から成る「私の提案」があり、カナダ関係は以下の2点。すなわち、第1項c 「一般オーガナイザーという資格で私は、(1) カナダ社会党を分裂させること、(2) カナダにおいて合法政党を組織すること、(3) ……〔該当せず〕、に成功するまで、ここにとどまることが許されるべきである」。第3項「5,000ドルが直ちにカナダ共産党が自由に使えるようにされるべきである。この党は最も精力的にロシア飢饉救済のための募金を集めており、それは50,000ドルに達しており、その金を党は自らの経費のために借りることはできない」。

エイジエンシーの存続にとって何よりも致命的だったのは、第1項の冒頭、「パンアメリカン・エイジエンシーの即時の解体」をスコット自らが提案

し、エイジエンシーに残された全資金（約2万ドル）の独自の配分案をも提示するまでになっていたことである。

〔付記〕 本研究は日本学術振興会（JSPS）科学研究費補助金（研究課題番号24520833）の助成を受けたものである。

### 注

- (1) A. Yamanouchi (ed.), *Basic Research on the Pan-American Agency of the Comintern. Publication of Scientific Research Results promoted through the Grant-in-Aid for Scientific Research (C) of the Japan Society for the Promotion of Science in the Fiscal Years 2004-2006*, May 2007, xvi, 183 p.; 山内昭人『初期コミニテルンと在外日本人社会主義者——越境するネットワーク——』ミネルヴァ書房, 2009年11月, viii, 334頁.
- (2) A. Yamanouchi (ed.), *Comprehensive Research on the Pan-American Agency of the Comintern. An Interim Publication of Scientific Research Results promoted through the Grant-in-Aid for Scientific Research (C) of the Japan Society for the Promotion of Science in the Fiscal Years 2012-2014*, March 2014, xviii, 176 p.
- (3) G. Bolotenko, "The National Archives and Left-Wing Sources from Russia: Records of the Mackenzie-Papineau Battalion, the Communist Party of Canada and Left-Wing Internationals," *Labour/Le Travail*, Vol. 37, Spring 1996, 179-203; G.S. Kealey, "The RCMP, the Special Branch, and the Early Days of the Communist Party of Canada: A Documentary Article," *ibid.*, Vol. 30, Fall 1992, 169-204; 山内『初期コミニテルン』, 9, 16-17.
- (4) Communist Party of Canada fonds [hereafter cited as CPC fonds], R3137-0-5-E (former no. MG28, IV4), Library and Archives Canada [LAC], Ottawa.
- (5) I. Angus, *Canadian Bolsheviks. The Early Years of the Communist Party of Canada*, First Edition (Montreal, 1981), 36-39; Second Edition (Victoria, BC, 2004), 34-37.
- (6) CPC fonds, MG28, IV4, Vol. 9, File 26 (H-1582); cf. RG24, Vol. 2543, File H.Q.C. 2051, Vol. 1, LAC.
- (7) 前注で記した以外の史料は、アンガスが管理・運営するウェブサイト "Socialist History Project" に再録されており、それらの配布が巻き起こした状況報告 ("Toronto Is Nervous As 'Reds' Bombard City With Leaflets," *The Soviet*, 18.IV.1919, published by Local #1 of the Socialist Party in Edmonton, Alberta) も同様。cf. C. Larivière, *Albert Saint-Martin, militant d'avant-garde (1865-1947)* (Laval, Québec, 1979), 129.
- (8) Angus, *Canadian Bolsheviks*, First Edition, 37; Second Edition, 35.
- (9) *Ibid.*, Second Edition, 42-44.
- (10) Cf. 山内昭人編著『在米ロシア人移民労働運動史研究——在米ロシア人口ロニー統一

の試みを中心に——』2009～2011年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書, 2012年5月, 19-51.

- (11) Th.C. Baxter, Selected Aspects of Canadian Public Opinion of the Russian Revolution and on Its Impact in Canada, 1917-1919 (MA thesis, University of Western Ontario, 1972), 103, 114, 147, 194.
- (12) W. Stewart, "On Dictatorship," *The Red Flag* (Vancouver), Vol. 1, No. 18, 24.V.1919, 1.
- (13) E.g. "The Sympathetic Strike in Canada," *The Red Flag*, Vol. 1, No. 20, 7.VI.1919, 1.
- (14) F. Swyripa/J.H. Thompson (eds.), *Loyalties in Conflict. Ukrainians in Canada During the Great War* (Edmonton, 1983), 190-192; cf. A. Balawyder, *Canadian-Soviet Relations between the World Wars* (Toronto/Buffalo, 1972), 26; N. Penner, *The Canadian Left. A Critical Analysis* (Scarborough, 1977), 57, 70.
- (15) G.S. Kealey/R. Whitaker (eds.), *M.C.M.P. Security Bulletins. The Early Years, 1919-1929* (St. John's, 1994), 198.
- (16) Cf. I. Angus, "A Party of a New Type. The Socialist Party of Canada and the Birth of Canadian Communism," *Marxism. A Socialist Annual* (Toronto), No. 4, 2006, 66, 69.
- (17) Angus, "A Party of a New Type," 69-70. 紹介の該当箇所は、下記注（72）*The Communist*, 4 にある。
- (18) Angus, "A Party of a New Type," 71-72.
- (19) Ibid., 66, 72; Angus, *Canadian Bolsheviks*, Second Edition, 59-60, 71-73. なお、共産主義体制崩壊後、カナダ史家はカナダ社会党の中にもう一つの「社会主义的可能性」を見出そうと試みてきている。例えばキャンベルによれば、「プロレタリアート独裁」論が左翼の極端な少数派にとどまらず、広く労働階級多数派の目的達成の一手段として受けとめられづけ、それがまたコミニテルン加入条件、いわゆる「21カ条」で規定された解釈とは異なることへのそれなりの評価が導き出されている。P. Campbell, "Understanding the Dictatorship of the Proletarian. The Canadian Left and the Movement of Social Possibility in 1919," *Labour/Le Travail*, Vol. 64, Fall 2009, 66, 68-69. いささか後からの詠み込みに近いこの解釈について、本稿では触れないことにする。
- (20) Angus, *Canadian Bolsheviks*, Second Edition, 74.
- (21) W. Rodney, *Soldiers of the International. A History of the Communist Party of Canada 1919-1929* ([Toronto], 1968), 23; cf. "One Big Union in Canada," *The One Big Union Monthly* (Chicago), Vol. 1, No. 3, 1.V.1919, 13.
- (22) T.A. Kawacki, Canadian Socialism and the Origin of the Communist Party of Canada, 1900-1922 (MA thesis, McMaster University, 1980), 205-206.
- (23) Angus, *Canadian Bolsheviks*, Second Edition, 49-51, 53-54.
- (24) I. Angus, "What Socialists Learned from the Winnipeg General Strike" [A talk presented at the Marxism 2004 Conference in Toronto May 6-9, in a session marking the 85th anniversary of the Winnipeg General Strike], in: [website] Socialist History Project; cf. Rodney, 27.

- (25) A.R. McCormack, *Reformers, Rebels, and Revolutionaries: The Western Canadian Radical Movement 1899-1919* (Toronto/Buffalo, 1977), 170-171, 209.
- (26) Ibid., 168.
- (27) D.J. Bercuson, "Western labour radicalism and the One Big Union: myths and realities," *Journal of Canadian Studies/Revue d'études canadiennes*, Vol. 9, No. 2, V.1974, 4.
- (28) D. Avery, "Dangerous Foreigners." *European Immigrant Workers and Labour Radicalism in Canada 1896-1932* (Toronto, 1979), 80.
- (29) J. Kolasky, *The Shattered Illusion. The History of Ukrainian Pro-Communist Organizations in Canada* (Toronto, 1979), 2-3; P. Krawchuk, *Mathew Popovich. His Place in the History of Ukrainian Canadians* (Toronto, 1987), 7-8, 18, 32-33; J. Kolasky (ed.), *Prophets and Proletarians. Documents on the History of the Decline of Ukrainian Communism in Canada* (Edmonton, 1990), 18-19.
- (30) Avery, 79.
- (31) 山内昭人「在米ロシア人移民労働運動史研究ノート（3）」『史淵』150輯, 2013年3月, 140-158.
- (32) *Документы внешней политики СССР*, Т. 2 (Москва, 1958), 499-500; cf. Balawyder, 34-35.
- (33) Balawyder, 35-36.
- (34) *Советско-Американские отношения годы непризнания 1918-1926* (Москва, 2002), 161-165; K.A.S. Siegel, *Loans and Legitimacy. The Evolution of Soviet-American Relations 1919-1933* (Kentucky, 1996), 34.
- (35) Cf. Siegel, 31-32.
- (36) L.C. Clark (ed.), *Documents on Canadian External Relations*, Vol. 3 (Ottawa, 1970), 802.
- (37) Ibid., 805; Balawyder, 37.
- (38) Cf. Clark (ed.), 805-819; Balawyder, 39-45.
- (39) Rodney, 25, 181.
- (40) Cf. 山内「在米ロシア人移民労働運動史研究ノート（3）」, 156-158.
- (41) Kealey/Whitaker (eds.), 48.
- (42) Ibid., 62.
- (43) Ibid., 63.
- (44) Ibid., 75.
- (45) Cf. I. McBride, "Barbarous Soviet Russia" (New York, 1920), 9, 16, 155.
- (46) "Cheer Soviet Russia and Slur America," *The Milwaukee Journal*, 8.XI.1920, 13.
- (47) CPC fonds, MG28, IV4, H-1580, Vol. 8, File 2.
- (48) S. Smith, *Comrades and Komsomolkas. My Years in the Communist Party of Canada* (Toronto, 1993), 64.
- (49) Kealey/Whitaker (eds.), 161; cf. 山内編『在米ロシア人移民労働運動史』, 18, 23.
- (50) Kealey/Whitaker (eds.), 178.

- (51) Ibid., 179.
- (52) Ibid., 292.
- (53) Ibid., 271.
- (54) Ibid., 293.
- (55) Records of the Federal Bureau of Investigation [1908-1922], RG65 [hereafter cited as Records of FBI], File No. BS202600-1775-291, National Archives and Records Administration, Washington, D.C. このファイル (1775) は1921年4月29日アメリカ司法省捜査局の指揮下で押収された約1,000点にものぼる文書から成っている。
- (56) 山内『初期コミニテルン』, 80. 両組織が非合法と合法という活動の次元を異にしていたことや、「パン」が省かれた使用が時として問題を孕んでいたことも、同書同頁参照。
- (57) Российский государственный архив социально-политической истории, ф. 495, оп. 18, д. 65, лл. 39-40 [hereafter cited as РГАСПИ, 495/18/65/39-40], Москва.
- (58) Records of FBI, BS202600-1775.
- (59) Repot of Organizer Atwood, РГАСПИ, 495/18/65/119-124; 495/98/1/4-9.
- (60) Cf. Rodney, 37.
- (61) Angus, "A Party of a New Type," 67-69; I. Avakumovic, *The Communist Party in Canada. A History* (Toronto, 1975), 18.
- (62) *The Communist Bulletin*. Published by Canadian Section of the United Communist Party of America (n.p.), Vol. 1. No. 1, n.d., 4 p.
- (63) アメリカ共産主義両党の各カナダ支部の活動家の名が以下も記されていくことに関して、補足的な説明をしておくと、両カナダ支部もまた、かなりの程度まで民族的に区分されていた。つまり、ウクライナ人とフィンランド人のレフトウィング・グループはCPAに加入し、それより少ない党员数のUCPAにはユダヤ人とアングロ-カナダ系の急進主義者が加入し、彼らの大部分は知識人であった。Angus, *Canadian Bolsheviks*, Second Edition, 64.
- (64) Cf. 山内『初期コミニテルン』, 88; 山内昭人『コミニテルン・パンアメリカン・エイジエンシーの基礎的研究』平成16～18年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書, 2007年5月, 31, 34, 42, 45.
- (65) РГАСПИ, 495/18/65/89. 本史料の末尾には「親愛なるヤヴキよ！ あなたにこれを情報をために送りつつある／スコット」と手書きされており、パンアメリカン・エイジエンシー議長へ送られたものであった。
- (66) なお、代表選出方式については、（アトウッド報告のいう）「その後の会議で」CP代表（この時マルクスは州会に戻り欠席）が以前、比例代表選出を支持したが、しかしパンアメリカ評議会からのいかなる最終指令にも抵抗しないだろうと語り、均等代表選出で決着をみた。
- (67) РГАСПИ, 495/18/65/117-118; 495/98/1/1-2. 以下の手書きの署名あり。“Charles E. Scott/ Sec'y of American Agency of Comintern.”

- (68) РГАСПИ, 495/18/65/126-128.
- (69) Convention Call for the Formation of the Communist Party of Canada, РГАСПИ, 495/98/1/13-15; 495/18/66/229-230. 前者の史料番号のものは「あなたのヤンソン-スコット」から  
ИККИ議長である「同志ジノヴィエフへ」宛てられている。
- (70) Minutes of the First Convention of the Communist Party of Canada, РГАСПИ, 495/18/65/200-203; The Application of the Communist Party of Canada for Affiliation with the Communist International, РГАСПИ, 495/98/4/59-62; 495/18/66/231-233 & 36.
- (71) 主な出席者は以下の通り。CPAからマクドナルド (J. MacDonald)、ベル (Th.J. Bell)、  
ボボヴィチほか；UCPAからスペクター (M. Spector)、カスタンス夫人 (Florence Custance) ほか；社会党からモリアーティ (W. Moriarty)、カヴァナ。CPAの代議員数  
の不均衡は党内の移民組織の大きさにより、ウクライナとフィンランドの代議員が加  
わっていたからであり、カナダ社会党からの2名は正式代議員ではなく、アトウッド  
による招待とみられる。D. Akers, "Rebel or Revolutionary? Jack Kavanagh and the Early  
Years of the Communist Movement in Vancouver," *Labour/Le Travail*, Vol. 30, Fall 1992, 30;  
Angus, *Canadian Bolsheviks*, Second Edition, 69.
- (72) *The Communist. Official Organ of the Communist Party of Canada (Section of the Communist International)* (n.p.), Vol. 1, No. 1, VI.1921, 8 p. ルガスピに保存された同紙1頁上段の余  
白には "To com[.] Lenin & Radek/fraternally yours Scott." とあり、スコットが送付したもの  
である。РГАСПИ, 495/98/4/12-15a.
- (73) "The Constituent Convention," *The Communist*, Vol. 1, No. 1, 1.
- (74) Angus, *Canadian Bolsheviks*, Second Edition, 69-70.
- (75) N. Penner, *Canadian Communism. The Stalin Years and Beyond* (Toronto et al., 1988), 47-48.
- (76) Ibid., 51.
- (77) Cf. ibid., 49.
- (78) Rodney, 38.
- (79) ちなみに、アトウッドのカナダ行の経費も受領額で1,330 ドル（実際の支出額で1,022.77  
ドル）かかっている。РГАСПИ, 495/18/66/323. この後、アトウッドことハリソンは、  
1921年7月にニューヨークで形成されたアメリカ労働同盟の全国書記に選出され、翌  
8月ニューヨークでのソヴェトの友 (Friends of Soviet Russia) 創立会議では議長を務  
め、そして12月に創設されたアメリカ労働者党（後述）のニューヨーク全国本部の書  
記に指名されるなどした。がしかし、「不向きな管理者」であることが判明し、個人  
的難事にも直面し、共産主義運動から離れていく。Cf. Th. Draper, *The Roots of American  
Communism* (New York, 1957), 336, 342, 360; B. Palmer, *James P. Cannon and the Origins of the  
American Revolutionary Left, 1890-1928* (Urbana/Chicago, 2007), 145-146.
- (80) Excerpts. C.E.C. Minutes. C.P.C. from May 25 to July 12, 1921, РГАСПИ, 495/98/4/16-18a.  
なお、1921年6月30日にはカナダ共産党の公式機関誌 (*Monthly Bulletin*) がCECによ  
て全党員へ向けて発行され、創立以来成し遂げられた結果が（詳しくはないが）報告

- された。以下も継続された同誌は、末尾に「グループに読まれ、それから破棄されるべきである」が必ず付された。РГАСПИ, 495/98/4/1; Kealey, "The RCMP," 172.
- (81) アヴァクモヴィチはT. ジョンソン＝カスタン夫人と捉え、ロドニイもカスタン夫人の党名は「ジョンソン」だと記しているが、確証は得られていない。Avakumovic, 25; Rodney, 37.
- (82) Minutes of Meeting [of C.E.C.], РГАСПИ, 495/98/4/19.
- (83) Report to Presidium of Comintern, РГАСПИ, 495/98/3/15-24; 495/98/3/34-41; 495/72/3/88-95.
- (84) РГАСПИ, 495/98/4/2-3; Kealey, "The RCMP," 172-174.
- (85) РГАСПИ, 495/98/3/59-64.
- (86) РГАСПИ, 495/98/4/29.
- (87) РГАСПИ, 495/98/4/30-31.
- (88) Cf. Draper, 277-280, 305.
- (89) *Thesen und Resolutionen des III. Weltkongress der Kommunistischen Internationale (Moskau, 22. Juni bis 12. Juli 1921)* (Hamburg, 1921), 37-38; 村田陽一編訳『コミニテルン資料集』第1巻(大月書店, 1978), 425.
- (90) РГАСПИ, 495/98/4/34.
- (91) РГАСПИ, 495/98/4/35-36.
- (92) *Thesen und Resolutionen*, 135-136; 村田編訳, 463.
- (93) Rodney, 42.
- (94) РГАСПИ, 495/98/4/37-38.
- (95) РГАСПИ, 495/98/4/70-77.
- (96) 本決定は、全党員には1921年9月30日付『ブレティン』第4号において党創設以来4ヵ月間の全般的状況報告の中で知らされた。РГАСПИ, 495/98/4/7-8; Kealey, "The RCMP," 178-180.
- (97) Kealey, "The RCMP," 182-183.
- (98) РГАСПИ, 495/98/4/96; 495/98/4/10.
- (99) РГАСПИ, 495/98/4/45.
- (100) РГАСПИ, 495/98/1/10.
- (101) РГАСПИ, 495/98/2/1-2; CPC fonds, MG28, IV4, Vol. 8, File 15 (H-1581).
- (102) РГАСПИ, 495/98/4/97-99; cf. 495/72/1/1-13. この会議の報告書は、スコットの手を経て、ジノヴィエフへ送られた。
- (103) Rodney, 46.
- (104) リーフレット「カナダ労働者へ」に拠っている。РГАСПИ, 495/98/5/3-4 об. これは採択された「宣言」に6項目からなる「採択された暫定内規」が末尾に加えられたものである。「宣言」は現在“Socialist History Project”で公開されている。
- (105) РГАСПИ, 495/98/1/16-21.
- (106) РГАСПИ, 495/98/4/55.

- (107) Rodney, 50-52.
- (108) *The Worker: Official Organ of the Workers' Party of Canada* (Toronto), Vol. 1, No. 1, 15.III.1922, 4 p. 不鮮明な箇所もあり、以下のコミニテルン報告「カナダにおける共産党」を参照した（ただし、開会日を「2月16日金曜日」と誤記しているが、金曜日は17日である）。  
РГАСПИ, 495/72/1/5-13.
- (109) Cf. Rodney, 50-51; Penner, *Canadian Communism*, 59-62.
- (110) Kolasky, *The Shattered Illusion*, 13; Kolasky (ed.), *Prophets and Proletarians*, 113-115; Rodney, 35; E.W. Laine, *Archival Sources for the Study of Finnish Canadians* (Ottawa, 1989), 5.
- (111) *The Worker*, Vol. 1, No. 1, 2; cf. Angus, *Canadian Bolsheviks*, Second Edition, 89.
- (112) Kealey, "The RCMP," 183-187.
- (113) 編者は『ワーカーズ・ガード』のことと注記しているが、上記のように創刊時だと改名前の『ワーカーズ・ワールド』も含まれる。
- (114) スコット自身もブレイ (A. Bray) の名でケリー (Y. Kelley) こと片山へ宛てた1921年7月22日付書簡で「その間、私は毎月1,000で彼らを援助している」と記していた。  
РГАСПИ, 495/18/66/49-51.
- (115) РГАСПИ, 495/98/4/5; Kealey, "The RCMP," 177.
- (116) 山内『初期コミニテルン』, 74-75. 受領総額をはじめパンアメリカン・エイジエンシーの活動資金全般の問題については、次稿（2012～2014年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書）で公表予定である。
- (117) РГАСПИ, 495/98/4/109-112; [slightly different draft:] CPC fonds, MG28, IV4, H-1581, Vol. 8, File 15.
- (118) なお、既述の「コミニテルン幹部会への報告」によれば、共産党員の大多数は英語を話せない移民であり、カナダ労働者党の全党員数約5,000人のうち、2,000人がフィンランド人、1,000人がウクライナ人、そして1,000人がユダヤ人、リトニア人、ロシア人が占めていたとのことだが（РГАСПИ, 495/98/3/15-24; 495/98/3/34-41; 495/72/3/88-95; cf. J. Mochoruk, "Pop & Co' versus Buck and the 'Lenin School Boys': Ukrainian Canadians and the Communist Party of Canada, 1921-1931," R.L. Hinther/J. Mochoruk (eds.), *Re-imagining Ukrainian Canadians. History, Politics, and Identity* (Toronto et al., 2012), 370）、既述の数字に比べ、英語を話せない移民が強調される文脈の中での提示であり、しかも概数でありすぎる分、説得力に欠ける。
- (119) РГАСПИ, 495/98/4/109-112; [copy:] CPC fonds, MG28, IV4, H-1581, Vol. 8, File 15.
- (120) Avakumovic, 27.
- (121) CPC fonds, MG28, IV4, M-7411.
- (122) Kealey, "The RCMP," 170; S. Hewitt, *Riding to the Rescue. The Transformation of the RCMP in Alberta and Saskatchewan, 1914-1939* (Toronto et al., 2006), 79-82; cf. J. Sawatsky, *Men in the Shadows. The RCMP Security Service* (Toronto, 1980), 43, 66.
- (123) Kealey, "The RCMP," 189-190, 202-203.

- (124) РГАСПИ, 495/72/3/84-87. アングロ-アメリカン-コロニアル・セクションは、正式には1922年3月30日に第1回会議を開いて設置された（РГАСПИ, 495/72/2/1-3）。これまで英語を話す諸国に影響を及ぼす問題がそれほど多くの注意を払われてこなかったゆえに、単なる一ピューローではなく、一セクションが確立されなければならないというのが設置理由であった。主な任務は、当該国の時事問題、特に一中央集権化した統一体としてのイギリス帝国および一帝国主義国家としての合州国に関わる全出来事をしつかり追うことであり、英-米-植民地の世界における重要な出来事に関する情報は、即座にИККИ幹部会メンバーへ転送されることになった。そして早くも4月10日の第3回会議において、組織名が（諸党内の名称として使われすぎている）「セクション」から「グループ」へと変更されることになった。РГАСПИ, 495/72/2/41-44.
- (125) РГАСПИ, 495/18/66/143-144.
- (126) Mochoruk, 338-339.
- (127) РГАСПИ, 495/18/66/122-124.
- (128) РГАСПИ, 495/18/66/139-140.
- (129) РГАСПИ, 495/18/66/136-137.
- (130) РГАСПИ, 495/18/66/121.
- (131) РГАСПИ, 495/18/66/143.
- (132) РГАСПИ, 495/18/66/142-143.
- (133) РГАСПИ, 495/18/66/143-144.
- (134) Cf. 山内『初期コミニテルン』, 105-107.
- (135) РГАСПИ, 495/108/11/47-50.
- (136) РГАСПИ, 495/18/66/171-181; 495/18/66/245-246; cf. 495/18/66/307-311.